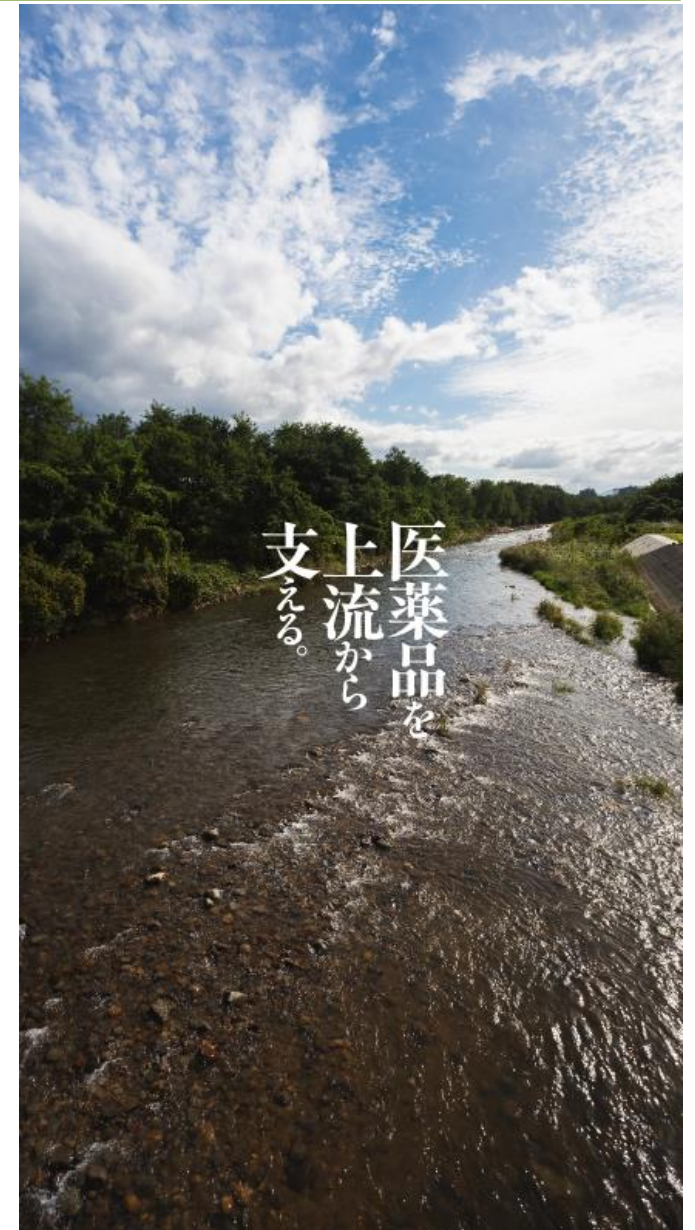


【決算説明会資料】 2025年6月期

コア商事ホールディングス株式会社
(証券コード：9273)

2025年8月8日



目次

- I. トピックス
- II. 中・長期事業計画
- III. 決算概要と業績予想
- IV. 市場環境と当社戦略の優位性

(**Appendix**)



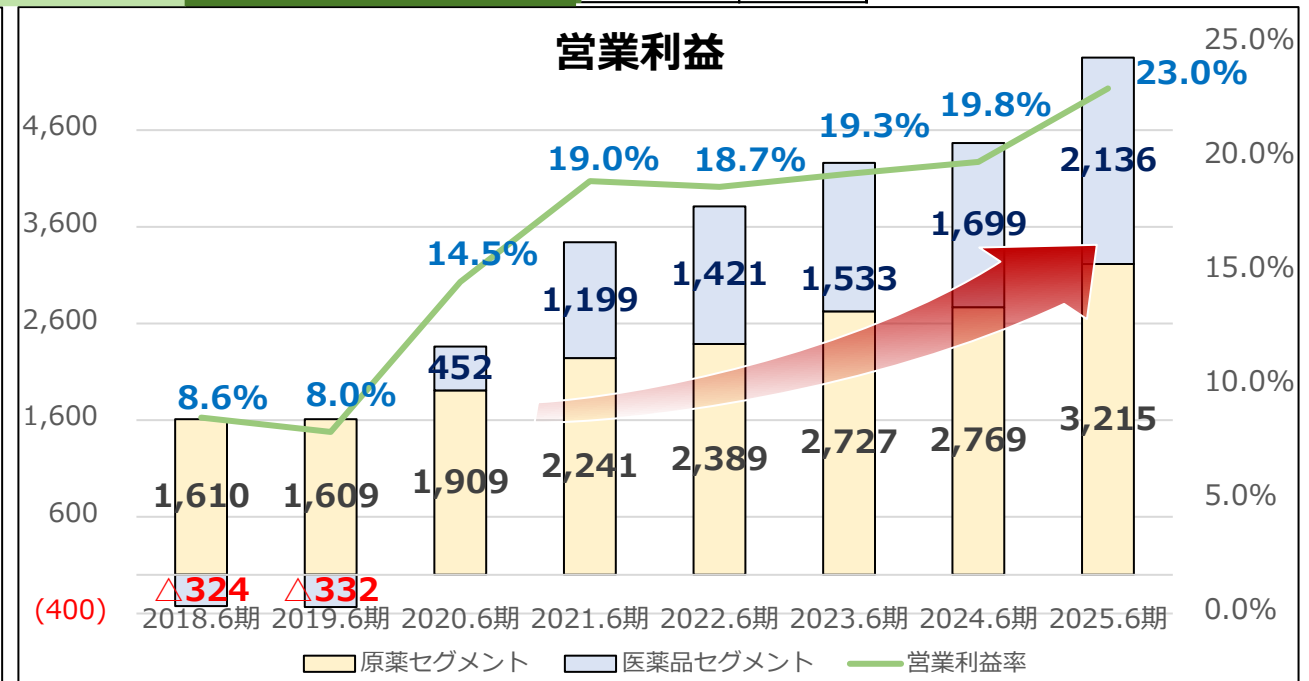
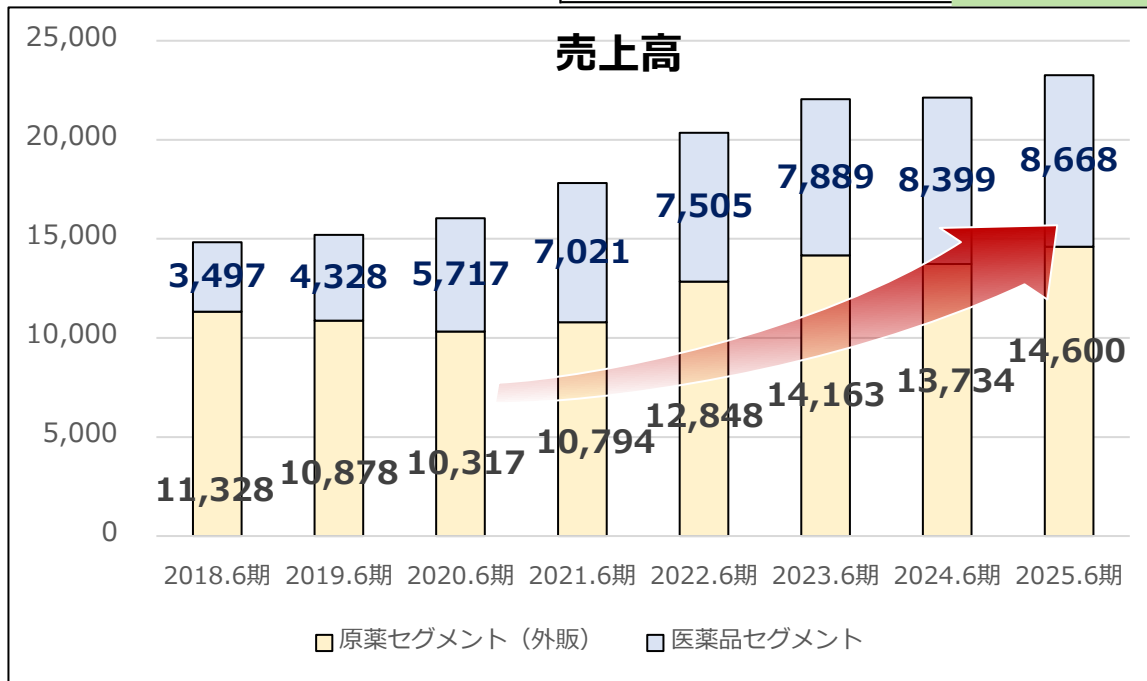
KOA SHOJI HOLDINGS

I-1. 2025年6月期 決算ハイライト

両セグメントが伸長し、売上高・各利益で過去最高を更新

	2024.6期		2025.6期		前期比	
	実績	%	実績	%		増減率
売上高	22,134	100.0	23,269	100.0	1,135	5.1
売上総利益	6,639	30.0	7,697	33.1	1,058	15.9
営業利益	4,382	19.8	5,355	23.0	973	22.2
経常利益	4,368	19.7	5,375	23.1	1,007	23.1
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,946	13.3	3,637	15.6	691	23.5

(単位：百万円)



※原薬セグメント：原薬販売事業、医薬品セグメント：医薬品製造販売事業

I-2. 2025年6月期 第4四半期 概況

市場環境

- ・長期収載品の**選定療養化※**等のジェネリック医薬品の使用促進策により、ジェネリック医薬品の数量シェアは2025年2月には90.6%へ拡大した。
(厚生労働省「最近の調剤医療費（電算処理分）の動向 令和6年度2月号」より)
- ・米国による**相互関税**等の政策が当社グループの業績へ及ぼす影響は、取引の多くが日本国内向けであるため軽微であった。

業績動向

- ・原薬セグメントは、近年上市した品目の拡販や選定療養※により一部の品目の取引量が増加したことにより前期比**増収・増益**となった。
- ・医薬品セグメントでは、蔵王工場で年次の定期点検に加え、おおよそ10年ごとの部品交換を行ったことにより**一時的**に生産量が減少した影響で4Qでは前期比**減収・減益**となった。

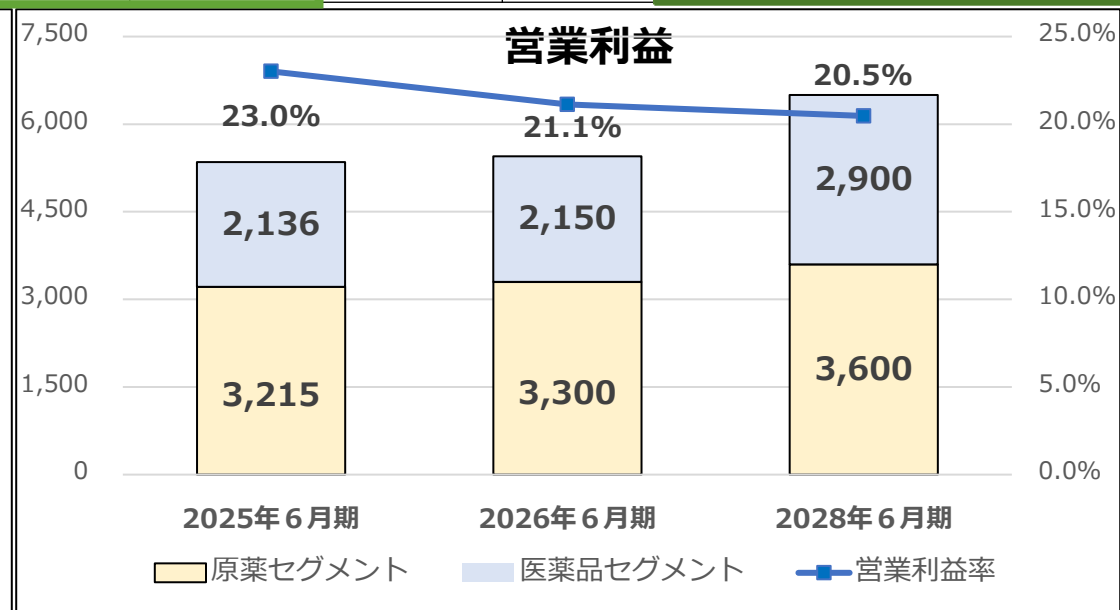
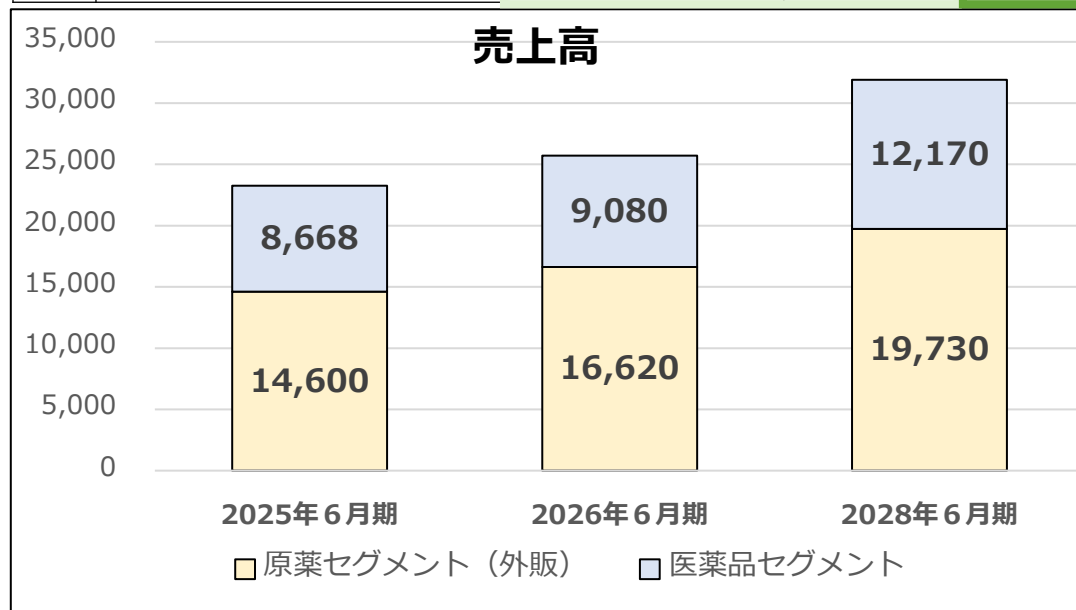
※長期収載品の選定療養とは、2024年10月1日から始まった制度で、ジェネリック医薬品がある先発医薬品を、医療上の必要がないにもかかわらず患者が希望する場合に、特別な料金を支払う仕組み。スライド34参照

I-3. 2026年6月期 業績予想概要

2026年6月期は両セグメントで増収、増益を見込み、
2028年6月期には蔵王第二工場が稼働を開始し更なる成長を目指す

(単位：百万円)

	2025年6月期		2026年6月期		前期比		2028年6月期	
	実績	%	予想	%		増減率	目標	%
売上高	23,269	100.0	25,700	100.0	2,431	10.4	31,900	100.0
原薬セグメント（外販）	14,600	62.7	16,620	64.7	2,020	13.8	19,730	61.8
医薬品セグメント	8,668	37.3	9,080	35.3	412	4.8	12,170	38.2
営業損益	5,355	23.0	5,430	21.1	75	1.4	6,530	20.5
原薬セグメント	3,215	13.8	3,300	12.8	85	2.6	3,600	11.3
医薬品セグメント	2,136	9.2	2,150	8.4	14	0.7	2,900	9.1
調整額	3	0.0	△20	△0.1	△23	－	30	0.1



I-4. 配当方針



配当方針：「原則、毎年増配」

2026年6月期も、配当金を17円へ**増配**を予想。
配当性向20%以上を目安に総合的に判断。

➤配当政策：

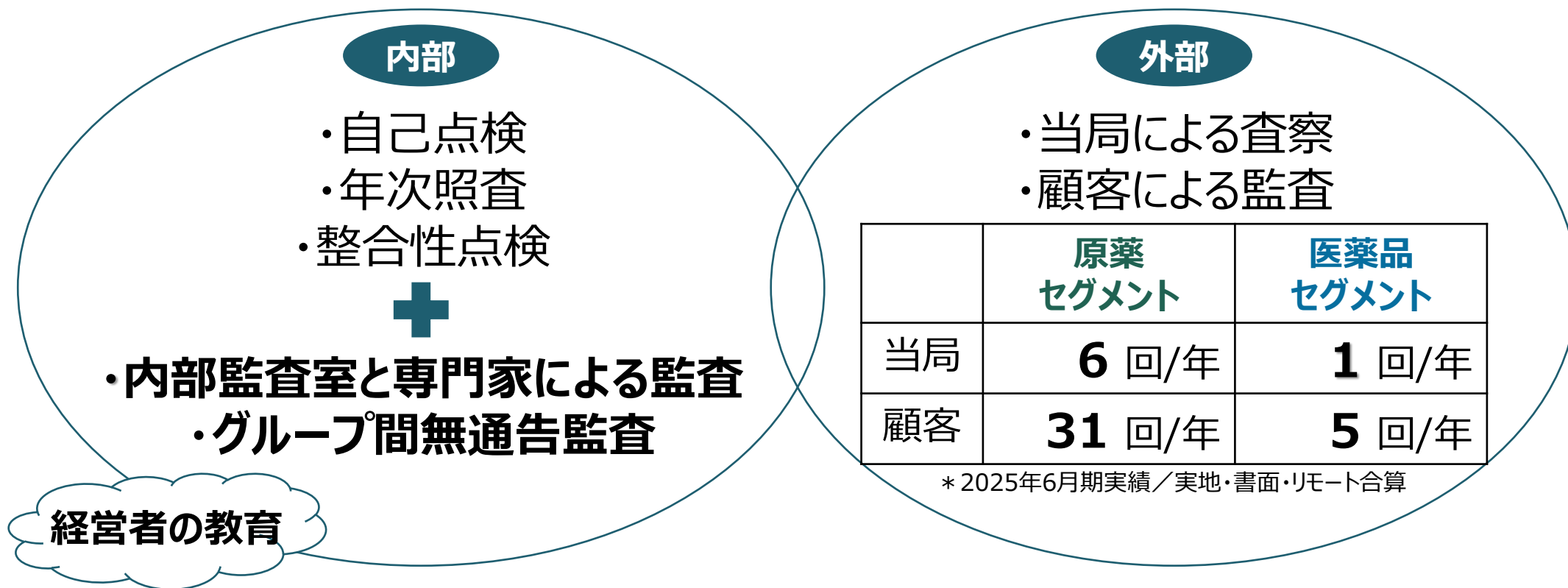
- 株主の皆様に対する利益還元は経営の重要課題と位置付け、「**原則、毎年増配**」を基本方針
- 将来にわたる企業成長と経営環境の変化に対応するために必要な内部留保を充実させる
- 今後も成長が見込まれる事業分野に経営資源を投入し、**企業の持続的成長と中長期的な企業価値、株主価値の向上**を目指す

➤配当基準日：6月末日

※これまで実施した株式分割の影響を考慮して算出

I-5. 当社グループの信頼への取り組み

法令遵守、品質管理のチェック体制

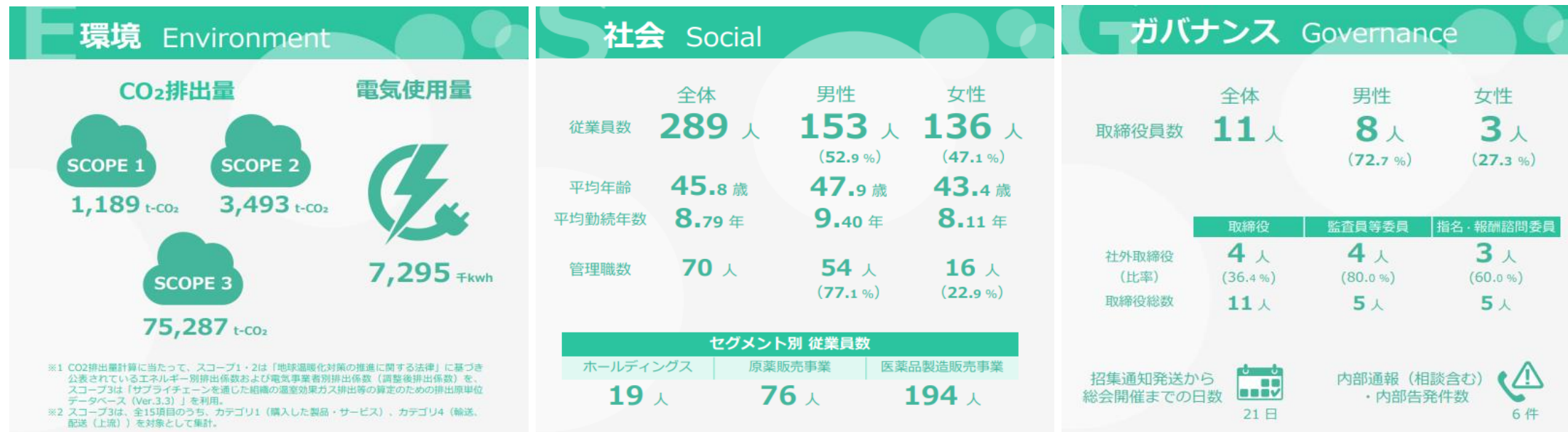


今後も本件取組みを定期的の実施することで
ジェネリック医薬品の確かな品質と安全性の確保並びに安定供給に取り組んでいく

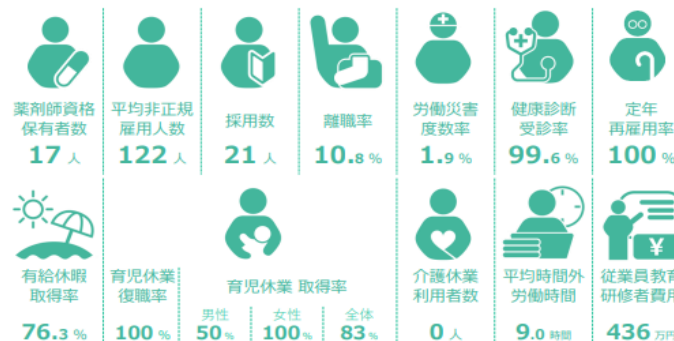
I-6. サステナビリティ活動

サステナビリティ委員会を中心とした、環境・社会・ガバナンスに対する取組みを進め、「ESG Data2024年」を公表

https://www.koashoji-hd.com/upfile/esg_data.pdf



その他エネルギー	量
液化石油ガス（LPG）	180 t
A重油	144 kl
都市ガス	72 千m ³
ガソリン	14 kl
灯油	5.0 kl
軽油	0.9 kl



2025年9月
「ESG Data2025年」
更新予定

Ⅱ．中・長期事業計画

1. 10ヵ年長期事業計画
2. 10ヵ年計画におけるグループ成長イメージ
3. 中・長期財務目標
4. 中・長期事業戦略～原薬セグメント
5. 中・長期事業戦略～医薬品セグメント
6. 医薬品セグメントにおける成長戦略
7. グループシナジー
8. 成長投資
9. 蔵王第二工場建設工事 進捗状況
10. キャッシュ・アロケーション
11. 成長投資と株主還元

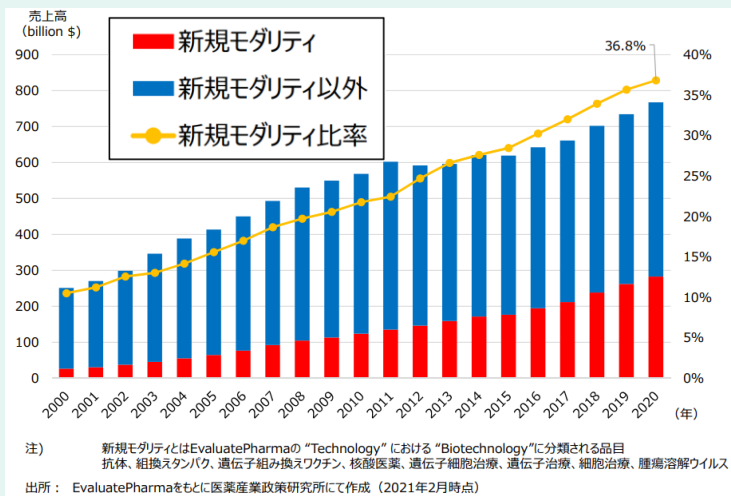


KOA SHOJI HOLDINGS

Ⅱ-1. 10カ年長期事業計画

2020年に長期事業計画を策定し、持続的成長戦略を公表

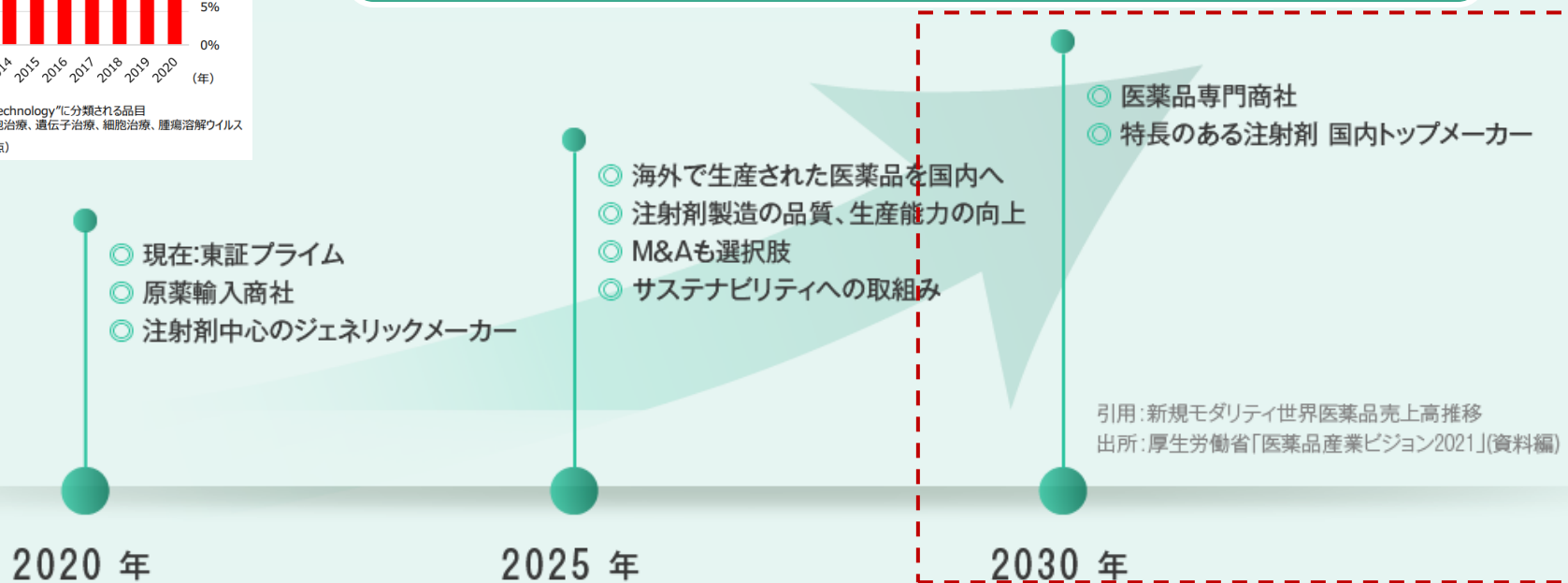
医薬を取り巻く環境変化と当社グループの持続的成長



新薬の新規開発の主体は従来の低分子からバイオ医薬品*などの高分子に移行し
さらに中分子、再生医療、遺伝子治療など、モダリティ*（治療手段）が
より多様化・複雑化するとともに、医療の個別化が進む

モダリティ革命を企業価値向上の機会として
経済的価値と社会的価値を両立

- * バイオ医薬品：
遺伝子組み換え技術や細胞培養
技術などのバイオテクノロジーを
応用し作られた医薬品
- * モダリティ：
低分子化合物やペプチド(中分子)薬、
抗体医薬、核酸医薬、バイオ医薬
といった創薬・治療手段の種別のこと

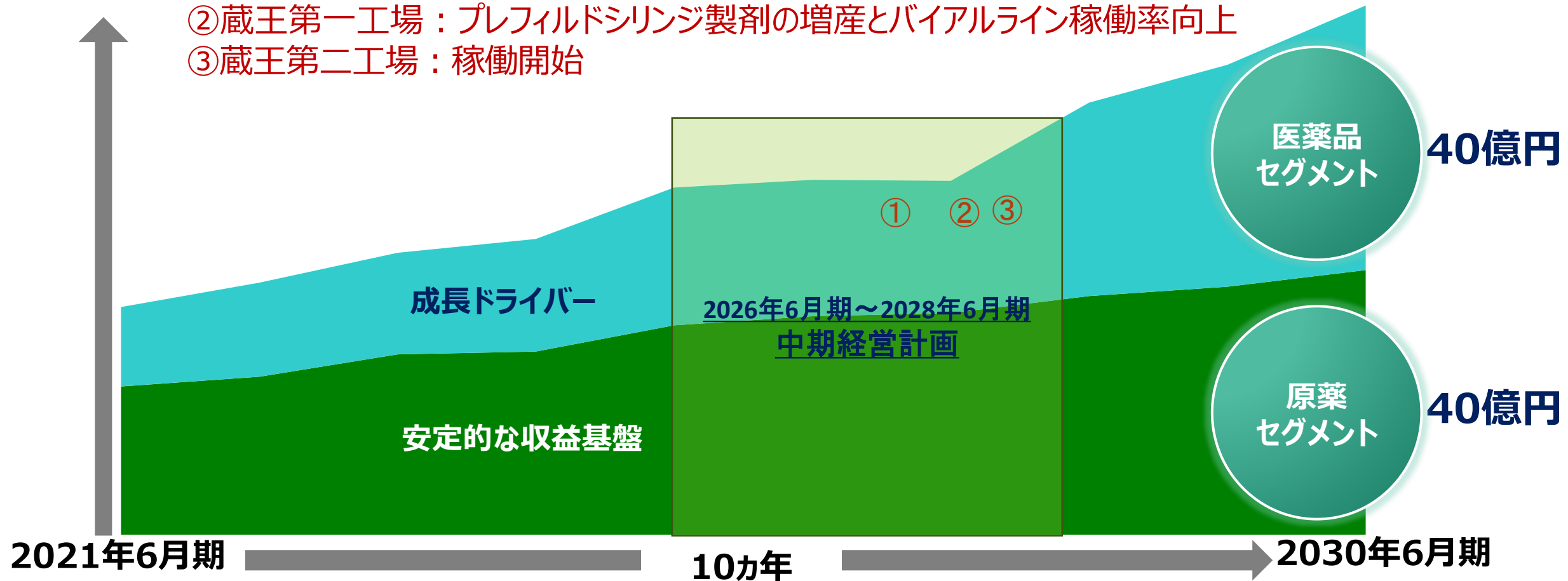


Ⅱ-2. 10カ年計画におけるグループ成長イメージ KOA

2026年6月期～2028年6月期までの中期経営計画

2030年6月期をターゲットとした長期事業計画の達成に向け**事業基盤を強化**

- ①本社工場：2026年12月業許可更新と再構築開始
- ②蔵王第一工場：プレフィルドシリンジ製剤の増産とバイアルライン稼働率向上
- ③蔵王第二工場：稼働開始



Ⅱ-3. 中・長期財務目標

『成長ドライバーである医薬品セグメントを拡大させ、
2030年6月期までに**連結営業利益80億円**を目指す。』

財務	2024年6月期 (実績)	2025年6月期 (実績)	2026年6月期 (業績予想)	2028年6月期 (中期目標)	2030年6月期 (長期目標)
連結売上高 (内部取引除く)	22,134	23,269	25,700	31,900	40,000
連結営業利益	4,382	5,355	5,430	6,530	8,000
ROE	12.8%	13.7%	12%以上		更なる向上 を目指す

(単位：百万円)

長期成長戦略

コーア商事株式会社／原薬輸入商社から、医薬品専門商社へ

ジェネリックのみならず、長期収載品・AG*への展開
新しいモダリティへの対応「ライセンスイン活動」を推進

* 長期収載品：既に特許が切れ、同じ効能・効果を持つジェネリック医薬品が発売されている新薬(先発医薬品)
AG：先発医薬品メーカーから許諾を得て製造される、原薬、添加物および製法等が新薬と同一のジェネリック医薬品

中期事業戦略

- ・ 2030年6月期目標達成に向けた蓋然性のある成長
新規収載品の採用件数増加、既存品のシェア拡大、長期収載品等の新薬メーカー向けビジネスの展開、等
- ・ サプライチェーンの強化と多様化
- ・ DX推進とAI技術の業務活用
- ・ 「医薬品専門商社」に向けた新規事業の推進
- ・ 進化するニーズに応えるバックオフィス
- ・ グループシナジーの強化
- ・ ESGへの対応



大阪医薬分析センターに増設した試験検査室を活用し、横浜医薬分析センターの更新を進めていく。

II-5. 中・長期事業戦略 ～医薬品セグメント

長期成長戦略

コーアイセイ株式会社／注射剤を主としたジェネリック医薬品メーカーから
特長のある注射剤国内トップメーカーへ

蔵王工場シリンジラインの増強、バイアルラインの本格稼働に向け、新規品目の追加
医薬品倉庫や注射剤製造設備等へ投資し、生産能力強化や安定供給体制を推進

中期事業戦略

『回収とのバランスに注視した設備投資を推進』

ESGに配慮し、開発から製造まで開発提案型の受託事業（CDMO）による持続的成長
法令遵守を基本とし、薬機法改正に対応した品質管理体制の強化並びに安心・安全な医薬品の安定供給を行う

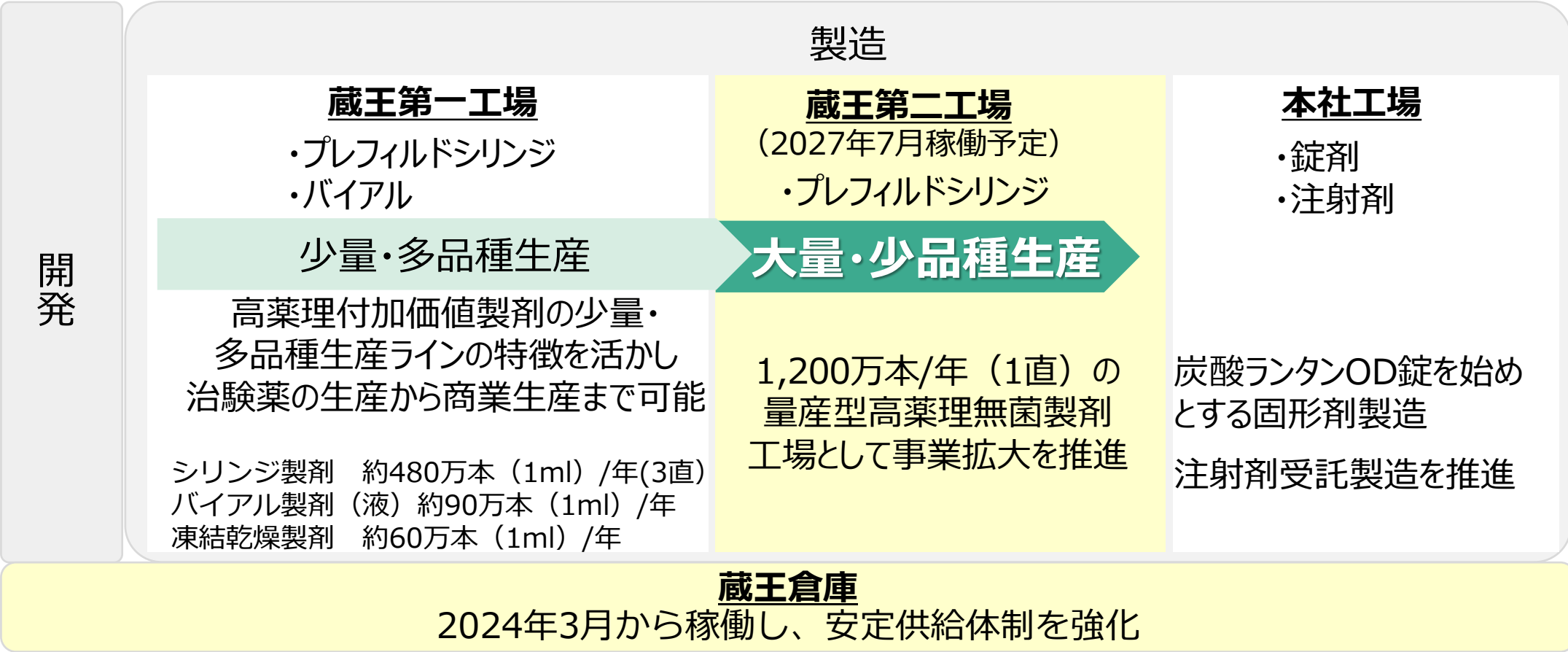
- ・ 業務全般にわたるコンプライアンス意識の向上
- ・ 開発提案型の受託事業（CDMO）戦略推進
- ・ 蔵王工場受託事業の本格展開
 - バイアル液剤・凍結乾燥製剤の新たな受託獲得
 - プレフィルドシリンジ製剤の増産、蔵王第二工場の早期稼働
- ・ グループシナジーの強化による新規開発検討
- ・ 経営計画に基づく投資計画、修繕計画による安心・安全な医薬品の安定供給
- 本社工場の再構築。2026年12月業許可更新と再構築
- ・ 企業指標を踏まえた安定供給体制の実践と適正価格販売の実施



II-6. 医薬品セグメントにおける成長戦略

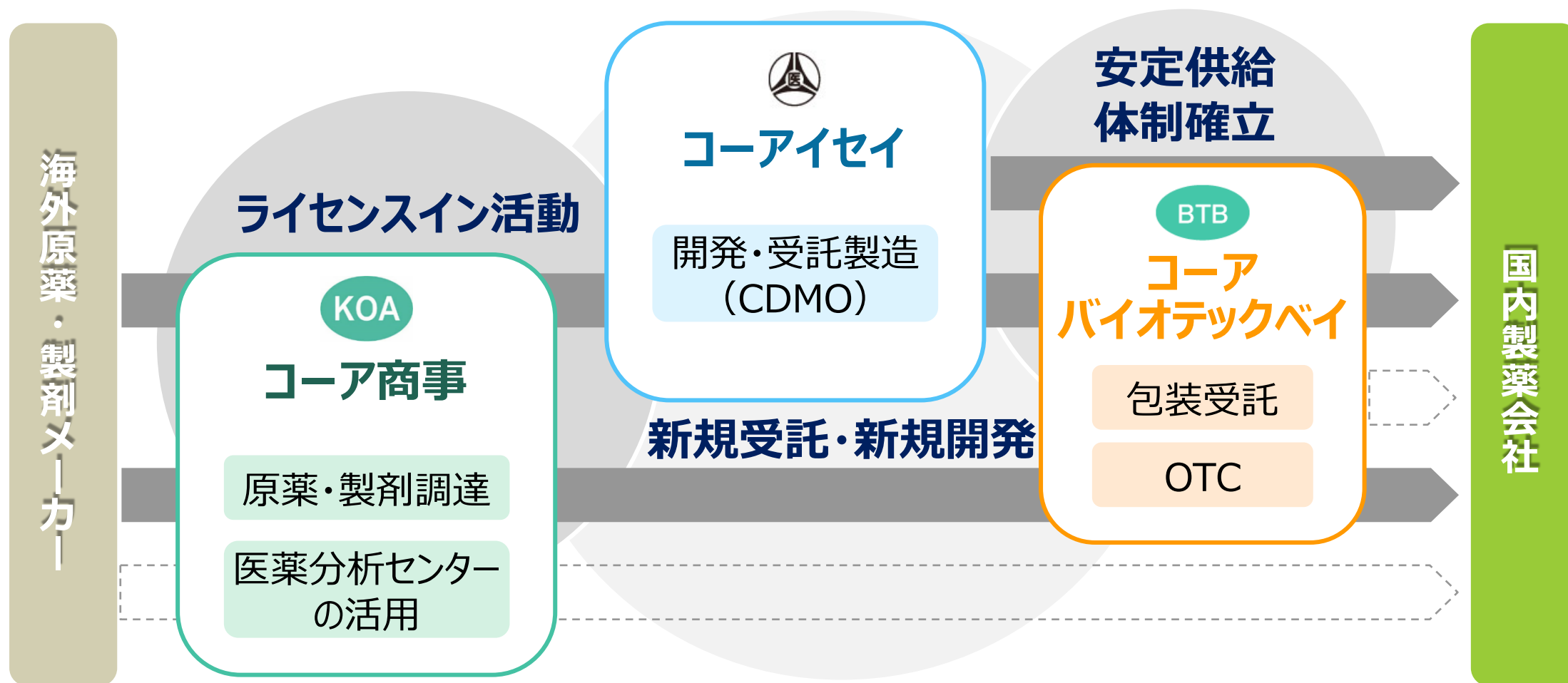
量産型の蔵王第二工場建設により、国内でも数少ない少量多品種高薬理工場である蔵王第一工場の特徴を活かし、注射剤のシリンジ・バイアルに特化した
開発から製造までの一貫したCDMO*体制の基、受託事業を強化

* CDMO : Contract Development and Manufacturing Organization 医薬品開発製造受託機関



Ⅱ-7. グループシナジー

両セグメントの事業領域を拡大し、グループシナジーを強化



Ⅱ-8. 成長投資

～2025年6月期

安定供給や取引量増加に
備えた設備投資

【原薬セグメント】

- ・大阪社屋内医薬分析センター
試験室改修工事
- ・医薬品原薬倉庫（危険物）建設 等



【医薬品セグメント】

- ・マキサカルシトール増産用
プラスチックシリンジ
液中外観検査装置導入
- ・蔵王倉庫建設 等



2026年6月期～2028年6月期

今後さらなる需要拡大に対応し、
安定供給責任を果たすための設備投資

【原薬セグメント】

- ・横浜医薬分析センターの更新
- ・更新に伴う既存拠点の改修工事 等



横浜医薬分析センター

【医薬品セグメント】

- ・蔵王第二工場建設
- ・本社工場の更新
- ・包装機械の導入 等



コーアイセイ
蔵王第二工場
製造機器(右)



コーアイセイ
本社工場

Ⅱ-9. 蔵王第二工場建設工事 進捗状況

2027年7月の稼働を目指し、予定通り進行中。

2025年7月1日時点

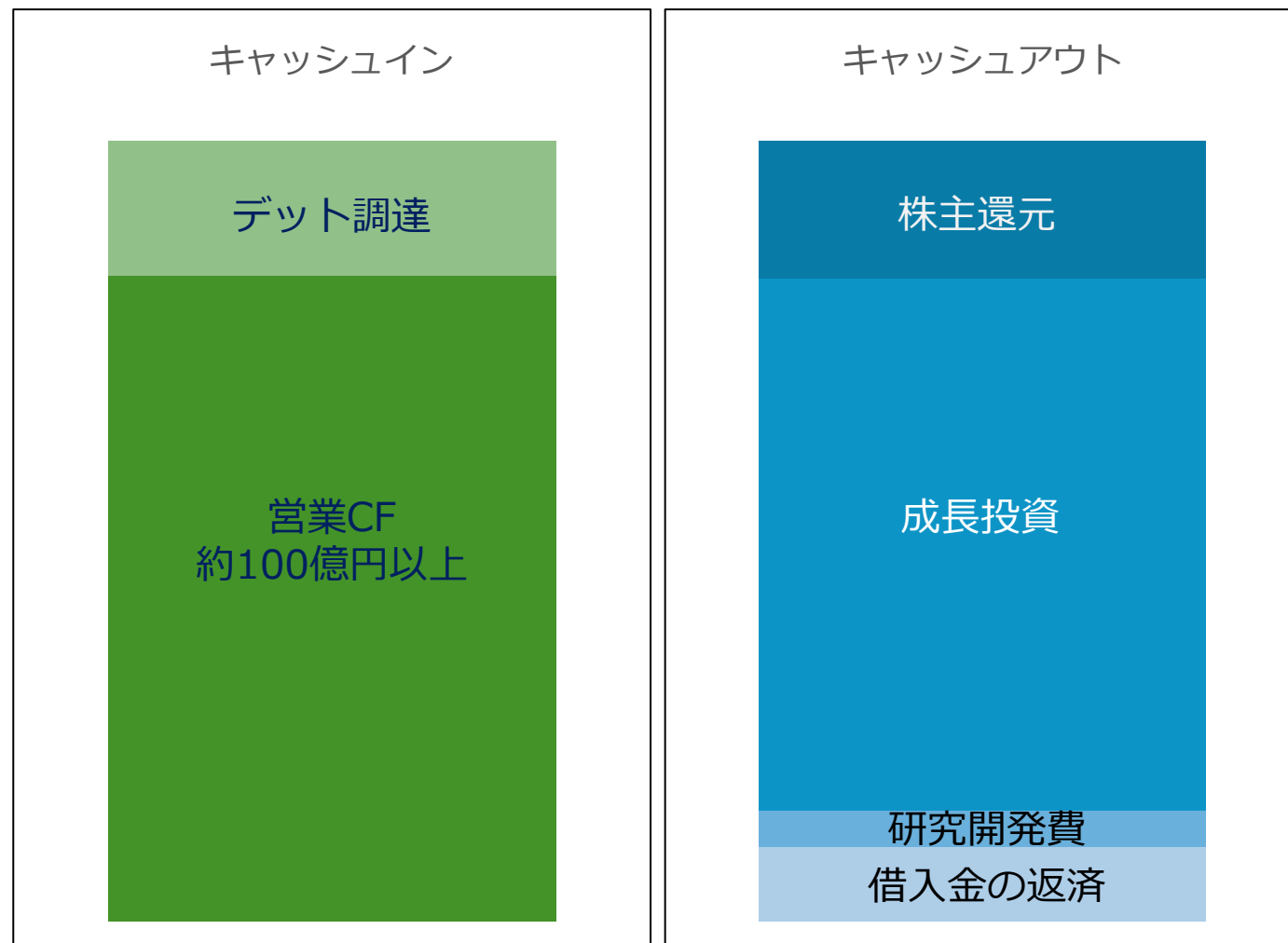


蔵王工場（左）と蔵王第二工場（右奥）

Ⅱ-10. キャッシュ・アロケーション

今後3年間で創出するキャッシュを成長に向けた投資と株主還元に分分

2026年6月期 ～ 2028年6月期



<方針>

投資、回収、還元というサイクルを回し、
持続的な成長を実現する

■株主還元

- ・ 配当方針である「原則、毎年増配」を基本として、**長期安定的な配当を継続**
配当金額は配当性向20%以上を目安に総合的に判断し、決定する

■主な成長投資

<原薬セグメント>

- ・ 横浜医薬分析センターの更新
- ・ 更新に伴う既存拠点の改修工事 等

<医薬品セグメント>

- ・ 蔵王第二工場建設
- ・ 本社工場の更新
- ・ 包装機械導入 等

Ⅱ-11. 成長投資と株主還元

投資、回収、還元というサイクルを回し、企業を**持続的に成長させ**
資本コストを意識した経営を実現



設備投資



中・長期成長戦略で掲げる

- 医薬品専門商社
- 特長のある注射剤トップメーカー
に向けた**設備投資**を推進



回収・リターン

中長期的な成長に向けた
事業計画を作成し、**数値目標を公表**



株主還元

原則、毎年増配

利益を意識した配当の維持・増配を実施

Ⅲ. 決算概要と業績予想

1. 決算ハイライト
2. 2025年6月期 増収要因
3. 原薬セグメント 売上高分析
4. 医薬品セグメント 売上高分析
5. 2025年6月期 増益要因
6. 経常利益の増減要因
7. 要約連結貸借対照表
8. 要約連結キャッシュフロー計算書
9. 通期業績予想
10. セグメント別 通期業績予想



KOA SHOJI HOLDINGS

Ⅲ-1. 決算ハイライト

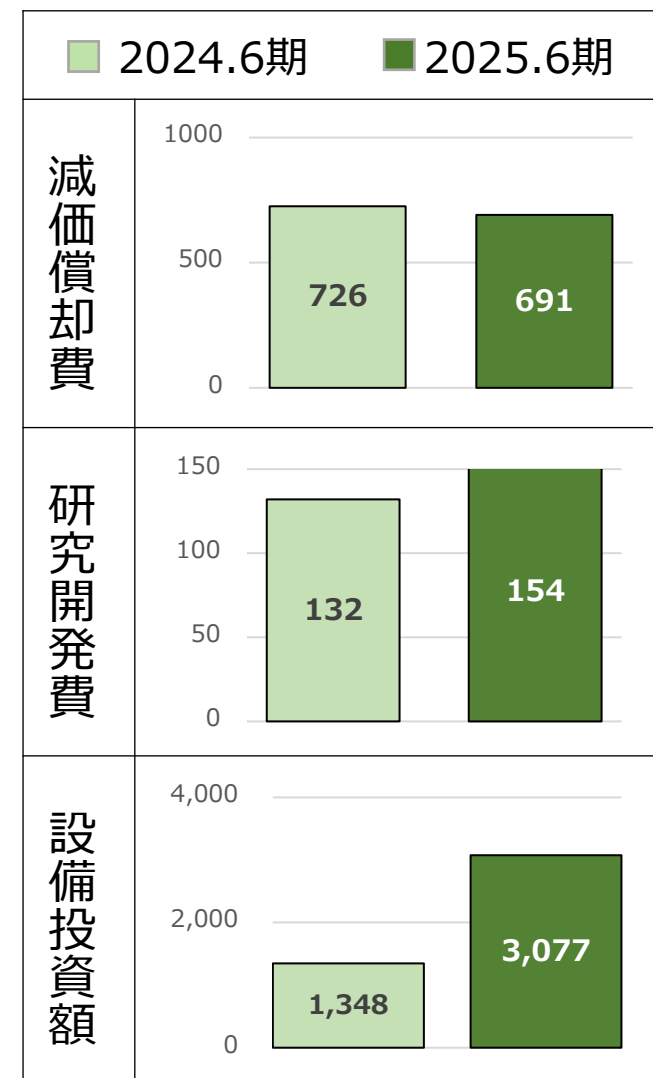
＜実績前期比較＞ 前期比増収・増益

減価償却費と研究開発費はほぼ横ばい。

設備投資は、医薬品セグメントの蔵王第二工場の建物と機械装置への投資が進んだ。

(単位：百万円、%)

	2024.6期		2025.6期		前期比	
	実績	%	実績	%		増減率
売上高	22,134	100.0	23,269	100.0	1,135	5.1
売上総利益	6,639	30.0	7,697	33.1	1,058	15.9
営業利益	4,382	19.8	5,355	23.0	973	22.2
経常利益	4,368	19.7	5,375	23.1	1,007	23.1
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,946	13.3	3,637	15.6	691	23.5
配当金(円/株)	13	—	16	—	3	23.1
減価償却費	726	3.3	691	3.0	△35	△4.8
研究開発費	132	0.6	154	0.7	22	16.4
設備投資額	1,348	6.1	3,077	13.2	1,729	128.3



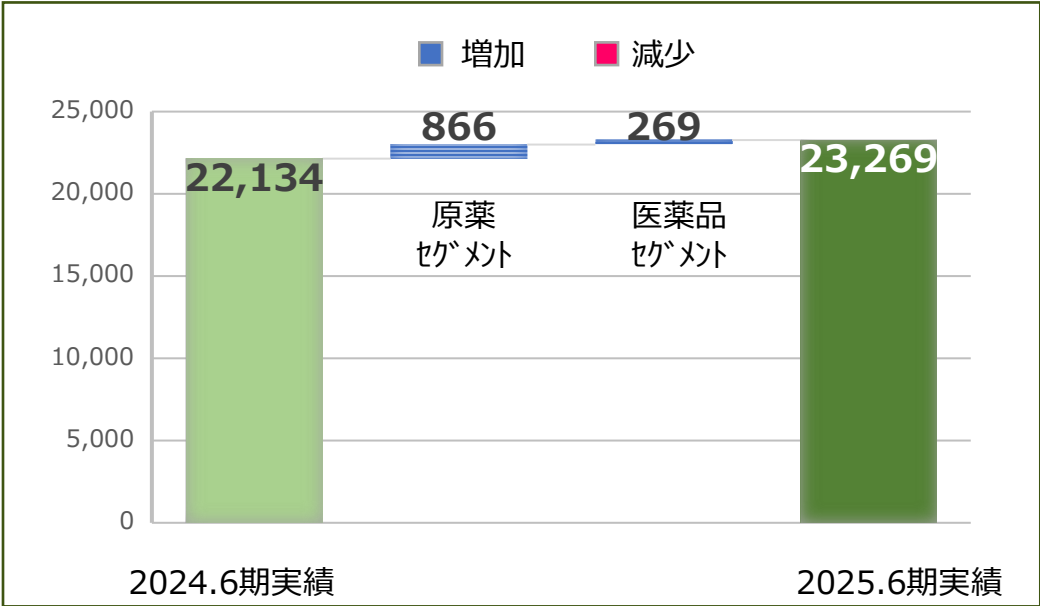
Ⅲ-2. 2025年6月期 増収要因

両セグメントがともに伸長し増収

	2024.6期 実績	2025.6期 実績	前期比		2025.6期 業績予想	予想比		(単位：百万円)
				%			%	
売上高	22,134	23,269	1,135	105	23,350	△81	100	
原薬セグメント	15,455	15,930	475	103	15,890	40	100	
原薬セグメント（外販）	13,734	14,600	866	106	14,690	△90	99	
内販	1,721	1,330	△391	77	1,200	130	111	
医薬品セグメント	8,399	8,668	269	103	8,660	8	100	
調整額	△1,721	△1,330	391	—	△1,200	△130	—	

原薬セグメント：
 新規品目はシェア拡大や得意先での開発の進捗に合わせた販売数量の増加があり堅調に推移。
 既存品では、得意先の在庫調整や競合原薬の採用による受注数量の減少があった一方で、選定療養によりジェネリック医薬品のシェアが伸びたことによる受注数量の増加があり、増収となった。

医薬品セグメント：
 主力製品の錠剤が競合の参入等により減少したものの、プレフィルドシリンジ製剤の販売が増産対応等により堅調に推移したことで、増収となった。

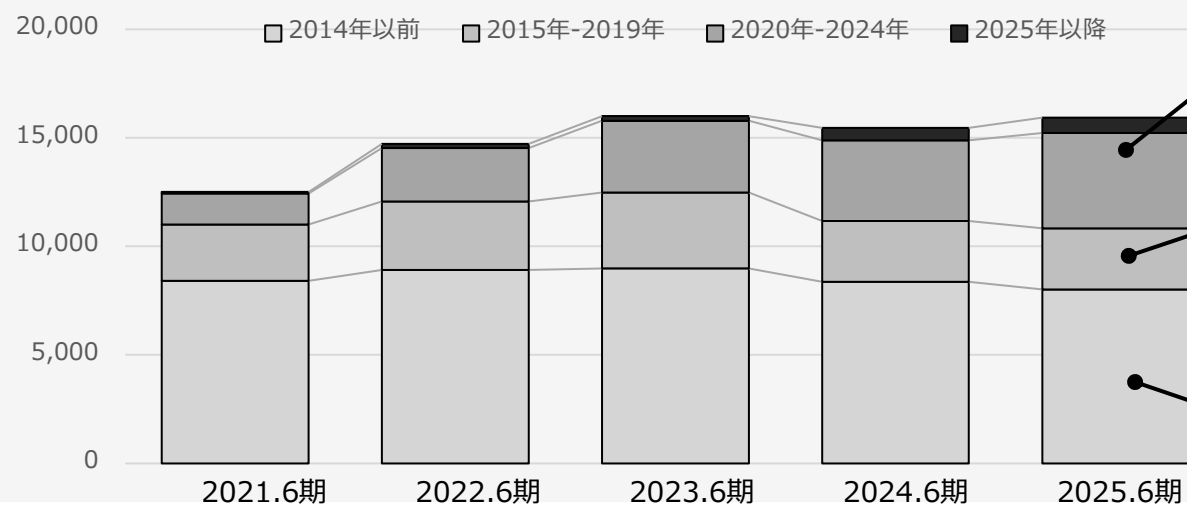


Ⅲ-3. 原薬セグメント 売上高分析

原薬セグメントでは、近年上市した品目の拡販や、一部の品目で選定療養や得意先での在庫調整が解消したこと等により取引量が増加し増収となった

(単位：百万円)

上市年別 売上推移



中枢神経系用薬、腫瘍用薬

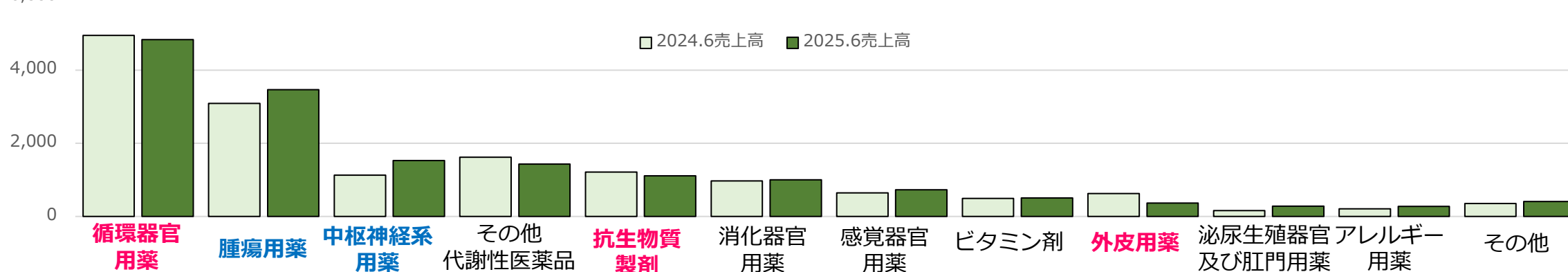
：近年上市品目の拡販等により増加

循環器官用薬：競合原薬の採用や顧客の仕入タイミングの影響等により減少した品目もあれば、選定療養により増加した品目もあり前期比横ばい

腫瘍用薬：一部の品目で得意先の在庫調整が解消し取引量が増加

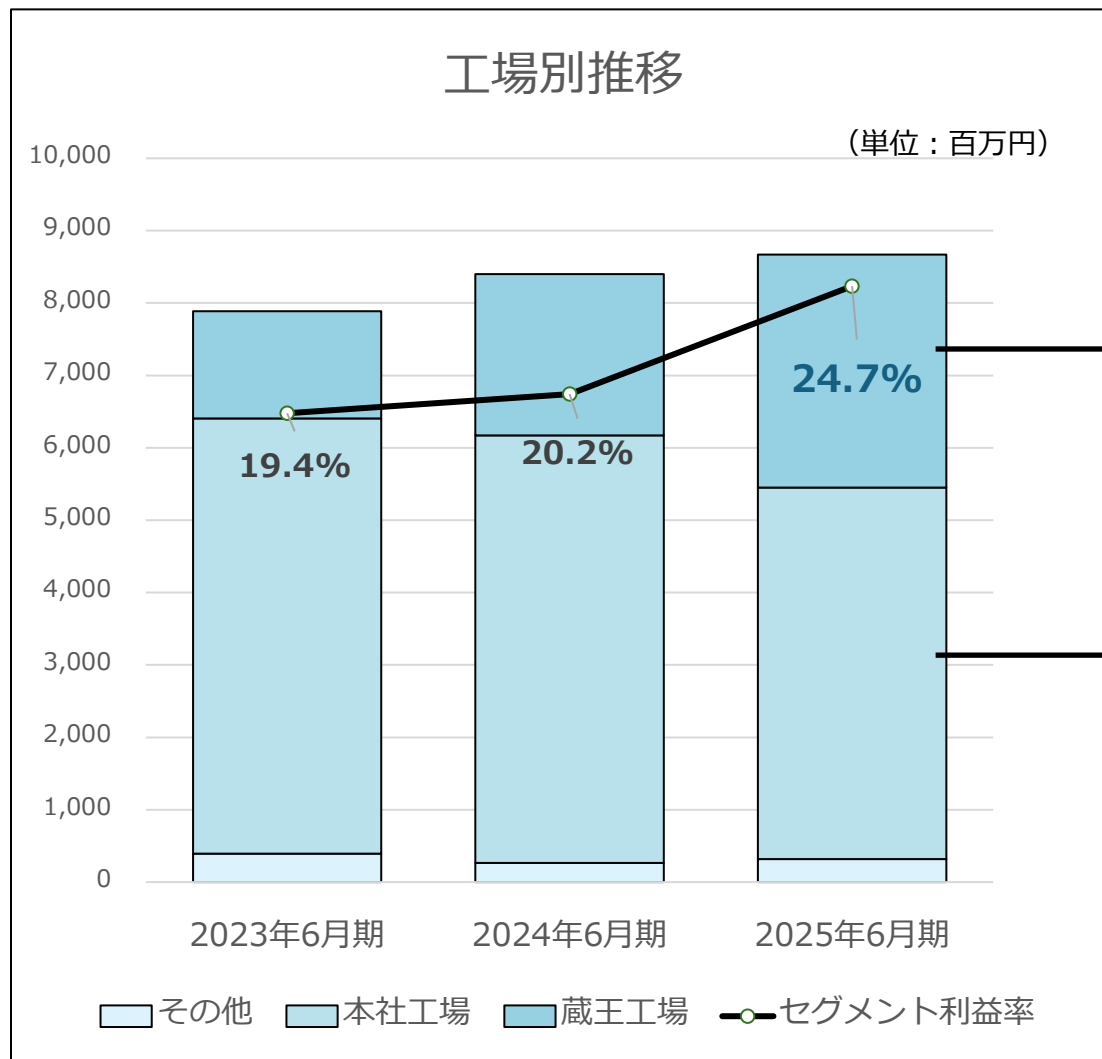
外皮用薬、抗生物質製剤：得意先での在庫調整や購入タイミングの影響等により減少

薬効分類別 売上前期比較



Ⅲ-4. 医薬品セグメント 売上高分析

蔵王工場のプレフィルドシリンジ製剤が堅調に推移し、増収となった



蔵王工場：

プレフィルドシリンジ製剤の販売が、2024年1月から行っている増産対応等により堅調に推移し増加

本社工場：

新規受託の追加による増加があったものの、主力製品の錠剤が競合の参入等により減少したことや既存品の販売中止等により減少

セグメント利益率：

4Qは蔵王工場で行った年次の定期点検を実施したため稼働率が下がり利益率は低くなったものの、通期では収率や稼働率向上等による生産効率化や売上構成の変化等により向上した

Ⅲ-5. 2025年6月期 増益要因

営業利益、経常利益、当期純利益のいずれも予想を達成し、前期比も増益

	2024.6期	2025.6期	前期比		2025.6期	予想比	
	実績	実績		%	業績予想		%
営業利益	4,382	5,355	973	122	4,620	735	116
原薬セグメント	2,769	3,215	446	116	2,850	365	113
医薬品セグメント	1,699	2,136	437	126	1,790	346	119
調整額	△87	3	90	—	△20	23	—
(営業利益率)	19.8%	23.0%	3.2	116	19.8%	3.2	116
経常利益	4,368	5,375	1,007	123	4,600	775	117
当期純利益	2,946	3,637	691	123	3,080	557	118

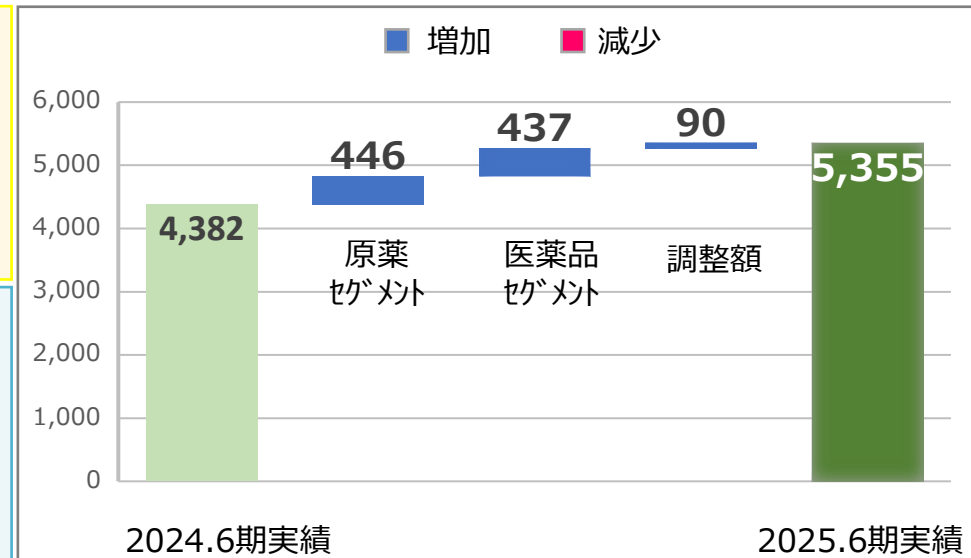
(単位：百万円、%)

原薬セグメント：

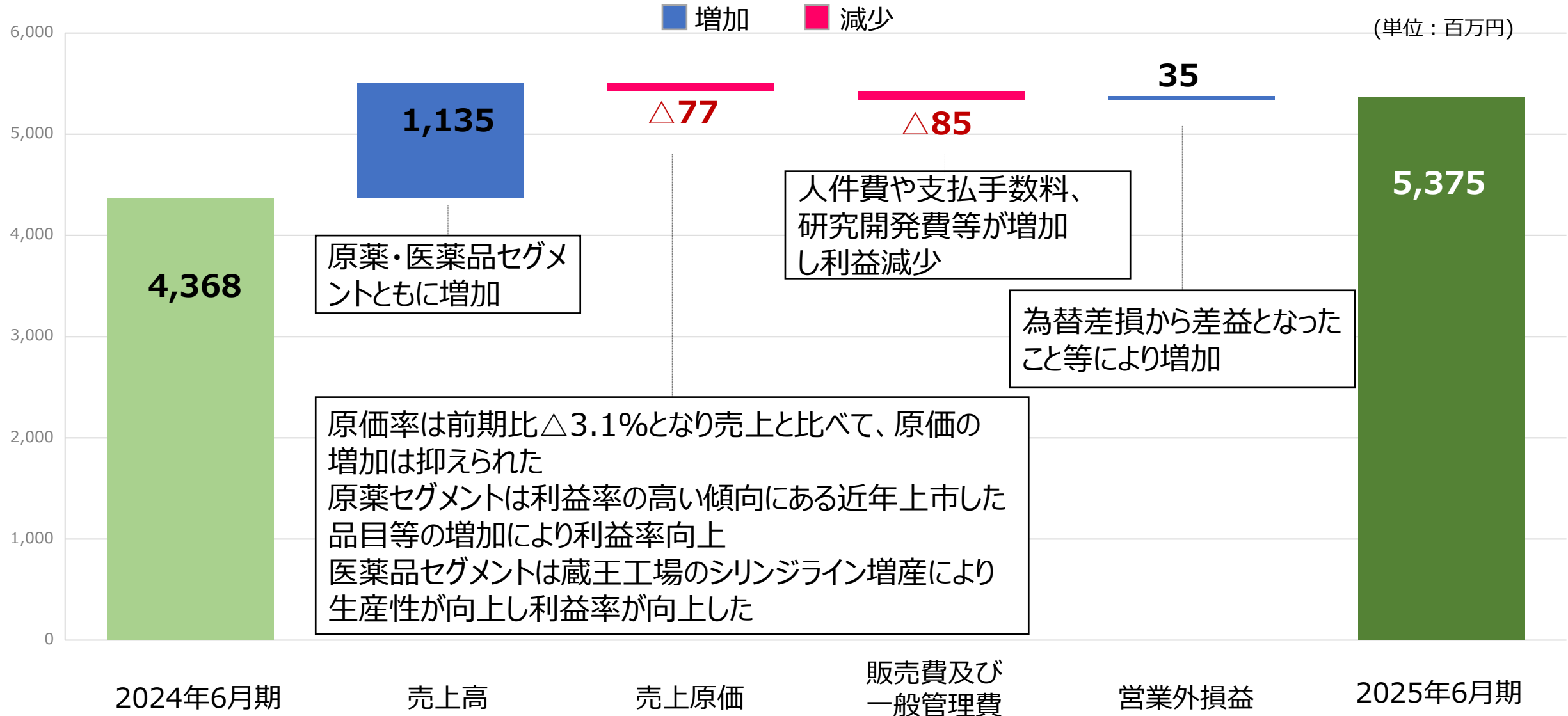
利益率の高い近年上市した品目等の売上増加に伴い増益となり、利益率も向上。為替影響は為替予約、サプライヤーとの交渉、為替連動取引等によりヘッジ。予算/実勢レート：USD149/150、EUR157/162

医薬品セグメント：

収率や稼働率向上等による生産効率化や売上構成の変化等により向上。一方、第4四半期において、蔵王工場の年次メンテナンスを実施したこと等による稼働率の低下等により、他の四半期ほど伸びなかった。



Ⅲ-6. 経常利益の増減要因



Ⅲ-7. 要約連結貸借対照表

- ・増益に伴い現預金や純資産が増加するも、設備投資の進行により負債が増加し、自己資本比率は77.9%へ減少
- ・蔵王第二工場等の設備投資により、固定資産が増加

(単位：百万円)

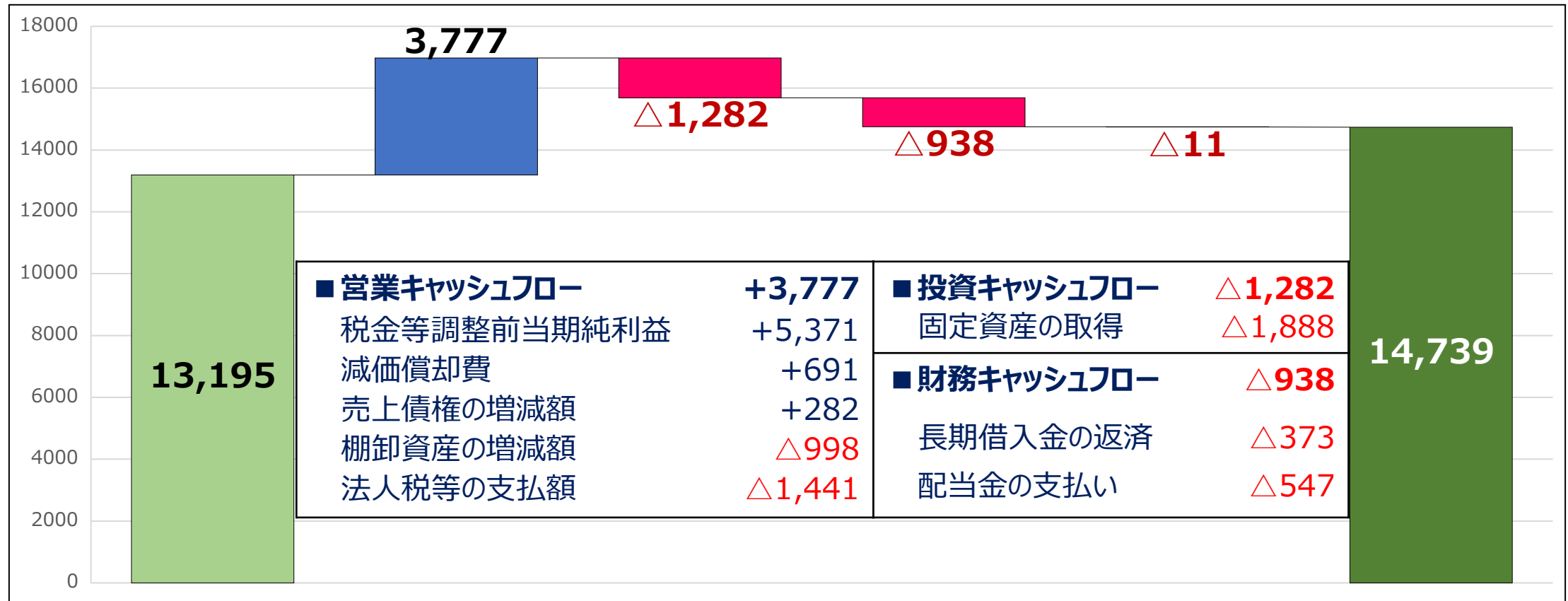
		2024年6月期		2025年6月期				2024年6月期		2025年6月期	
			%		%				%		%
流動資産		24,775	77.4	26,527	73.5	流動負債		4,976	15.5	6,363	17.6
	現金及び預金	13,954	43.6	14,919	41.3		仕入債務	2,205	6.9	2,016	5.6
	売上債権	8,404	26.3	8,121	22.5		短期借入金	1,233	3.9	1,209	3.3
	棚卸資産	2,266	7.1	3,264	9.0		その他	1,539	4.8	3,138	8.7
	その他	149	0.5	221	0.6	固定負債		1,975	6.2	1,630	4.5
固定資産		7,228	22.6	9,587	26.5		長期借入金	1,591	5.0	1,241	3.4
	有形固定資産	6,835	21.4	9,195	25.5		その他	384	1.2	389	1.1
	無形固定資産	11	0.0	8	0.0	負債合計		6,952	21.7	7,994	22.1
	投資その他資産	381	1.2	382	1.1	純資産合計		25,051	78.3	28,120	77.9
資産合計		32,004	100.0	36,114	100.0	負債純資産合計		32,004	100.0	36,114	100.0

Ⅲ-8. 要約連結キャッシュフロー計算書

2025年6月期

■ 増加 ■ 減少

期首残高 (現金及び現金同等物) 営業活動によるキャッシュフロー 投資活動によるキャッシュフロー 財務活動によるキャッシュフロー 現金及び現金同等物に係る換算差額 期末残高 (現金及び現金同等物)



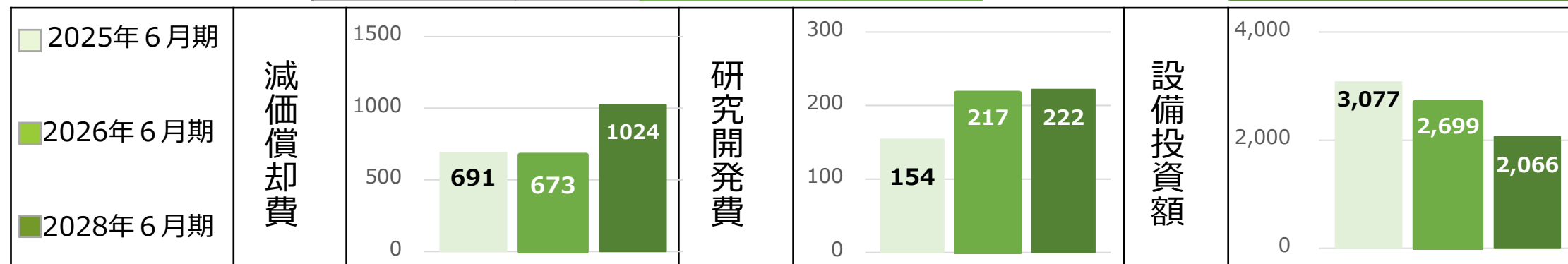
(単位：百万円)

Ⅲ-9. 通期業績予想

2026年6月期は、前期比 売上高10.4%増収、営業利益1.4%増益を予想
医薬品セグメントで蔵王第二工場の建設が進行。

2028年6月期には、第二工場稼働等により減価償却費が増加する見込み (単位：百万円)

	2025年6月期		2026年6月期		前期比		2028年6月期	
	実績	%	予想	%		増減率	目標	%
売上高	23,269	100.0	25,700	100.0	2,431	10.4	31,900	100.0
売上総利益	7,697	33.1	8,230	32.0	533	6.9	10,130	31.8
営業利益	5,355	23.0	5,430	21.1	75	1.4	6,530	20.5
経常利益	5,375	23.1	5,430	21.1	55	1.0	6,430	20.2
親会社株主に帰属する 当期純利益	3,637	15.6	3,640	14.2	3	0.1	4,380	13.7
配当金(円/株)	16	-	17	-	1	-	-	-
減価償却費	691	3.0	673	2.6	△18	△2.6	1,024	3.2
研究開発費	154	0.7	217	0.8	63	40.9	222	0.7
設備投資額	3,077	13.2	2,699	10.5	△378	△12.3	2,066	6.5



Ⅲ-10. セグメント別 通期業績予想

(単位：百万円)

	2025年6月期		2026年6月期		前期比		2028年6月期	
	実績	%	予想	%		増減率	目標	%
【連結売上高】	23,269	100.0	25,700	100.0	2,431	10.4	31,900	100.0
原薬セグメント	15,930	68.5	17,820	69.3	1,890	11.9	20,930	65.6
医薬品セグメント	8,668	37.3	9,080	35.3	412	4.8	12,170	38.2
調整額	△1,330	△5.7	△1,200	△4.7	130	—	△1,200	△3.8
【連結営業利益】	5,355	100.0	5,430	100.0	75	1.4	6,530	100.0
原薬セグメント	3,215	60.0	3,300	60.8	85	2.6	3,600	55.1
医薬品セグメント	2,136	39.9	2,150	39.6	14	0.7	2,900	44.4
調整額	3	0.1	△20	△0.4	△23	—	30	0.5

原薬セグメント：

2026年6月期は、新規採用品目の増加や既存品の販路拡大により増収増益を見込む
 販管費は、横浜医薬分析センターの更新に伴う修繕費等の発生や事業拡大に伴う人員増等により増加見込み
 ・予算レート：USD153、EUR163
 2028年6月期は、新規採用品目の獲得を続け、更なる成長を目指す

医薬品セグメント：

2026年6月期は、マキサカルシトールの増産や蔵王工場バイアルラインの受託展開、炭酸ランタンの数量増加、セファゾリン等の注射剤の拡販により増収・増益を見込む
 2028年6月期は、蔵王第二工場の稼働が開始することにより、更なる成長を目指す

IV. 市場環境と当社戦略の優位性

1. SWOT分析
2. ジェネリック医薬品業界の動向① 市場拡大への取り組み
3. ジェネリック医薬品業界の動向② 企業指標の導入
4. 市場規模：透析患者数推移と死亡者数推移（要因別）
5. 感染症予防とプレフィルドシリンジ



KOA SHOJI HOLDINGS

IV-1. SWOT分析

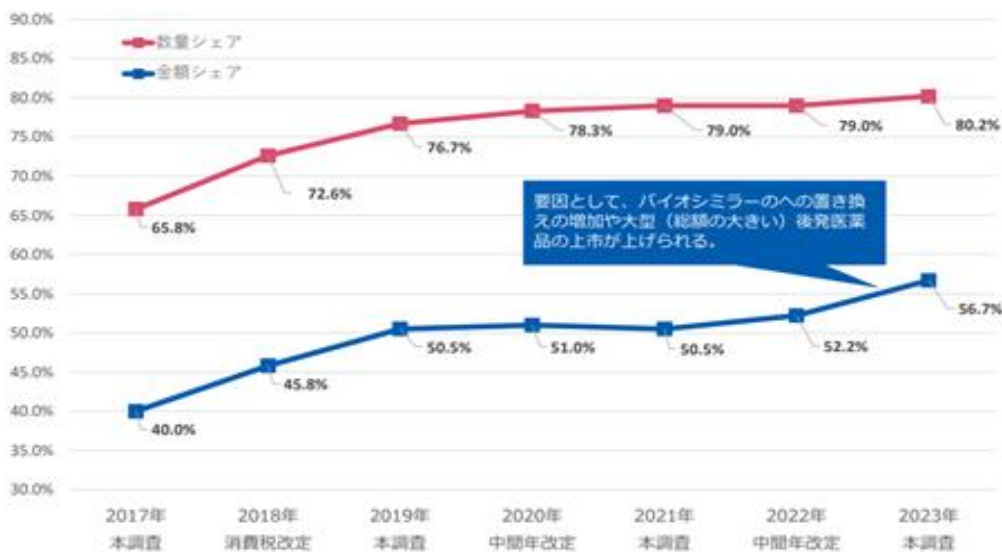
	プラス要因	マイナス要因
内部環境	強み (Strength) 原薬： ・世界10か国90社以上の海外サプライヤー、国内100社以上の製薬会社との取引実績 ・医薬分析センターによる品質保証 医薬品： ・長年にわたる注射剤の製造経験・技術 ・開発から製造まで一貫した受託体制 ・蔵王工場による高薬理活性注射剤対応	弱み(Weakness) 原薬： ・ジェネリック医薬品以外の取引 ・海外への販売力 ・横浜医薬分析センターの維持更新 医薬品： ・本社工場の維持更新 ・蔵王工場のバイアルライン稼働率 ・自社販売力
外部環境	機会(Opportunity) ・長期収載品の選定療養化 ・付加価値を備えたジェネリック医薬品への期待 ・モダリティ革命 ・製薬会社のマルチソース化(2nd/3rd選定) ・安定供給確保のための価格の下支え制度 ・安定供給体制の強化	脅威(Threat) ・ジェネリック医薬品の品質・供給問題と規制強化 ・毎年行われる薬価改定と企業指標の導入及び評価 ・マルチソース化に伴う競争激化 ・国際情勢不安による為替、物流等コストへの影響

IV-2. ジェネリック医薬品業界の動向① 市場拡大への取組み

医療費の適正化に向けて ジェネリック医薬品市場の拡大

「後発医薬品の金額シェアを2023年度56.7%から2029年度末までに65%以上とする」新目標設定

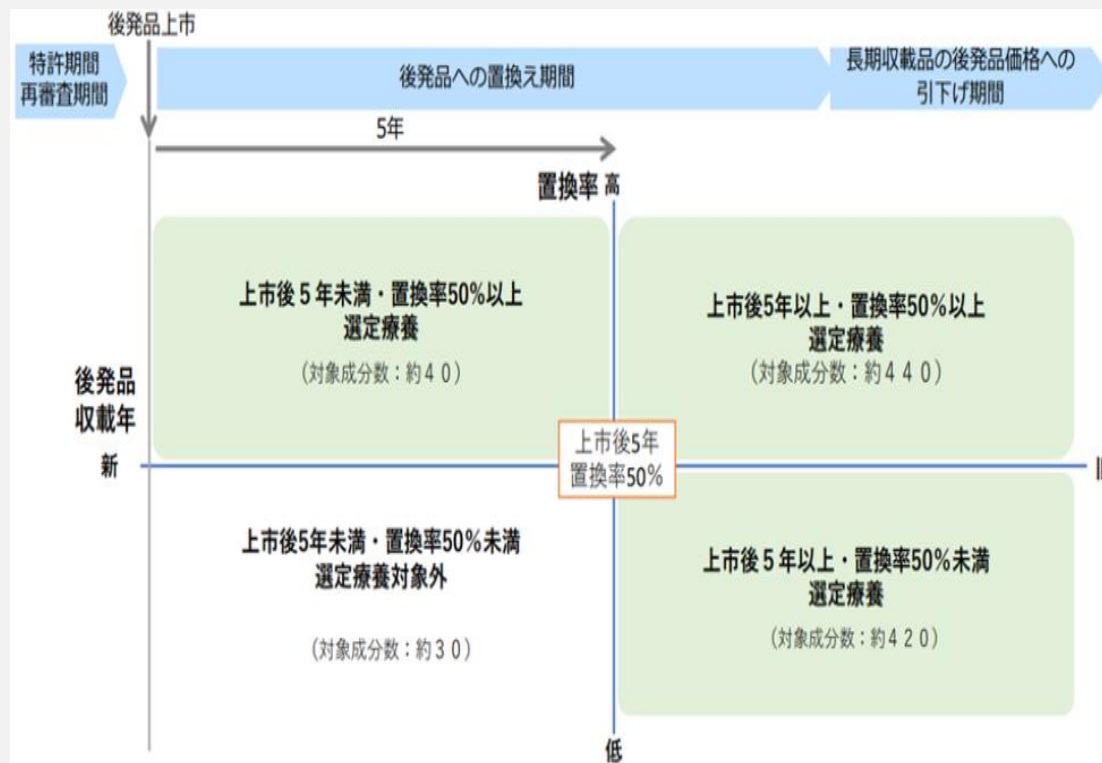
薬価調査における数量シェア及び金額シェアの推移



9

厚生労働省第176回社会保障審議会医療保険部会「後発医薬品に係る新目標について」
厚生労働省「第172回社会保障審議会医療保険部会議事次第」より引用

長期収載品に対して選定療養の仕組みを導入
(2024年10月1日より)



選定療養の対象となる長期収載医薬品の範囲（社保審・医療保険部会（1）2 231208）

IV-3. ジェネリック医薬品業界の動向② 企業指標の導入

厚生労働省は、品質が確保されたジェネリック医薬品を安定的に供給できる企業が市場で評価されるよう、企業指標評価制度の導入を進めている。

企業を評価するための主な指標

- ①後発品の安定供給に関連する情報の公表等
 - ・ 製造業者名、原薬の製造国、共同開発先企業名 等
- ②後発品の安定供給のための予備対応力の確保
 - ・ **原薬購買先の複数設定**
 - ・ 「安定確保医薬品」について、**品目ごとの一定以上の余剰製造能力又は在庫量の確保** 等
- ③製造販売する後発品の供給実績
 - ・ 製造販売する品目ごとの月単位の出荷実績 等
- ④薬価の乖離状況
 - ・ 後発品の全品目の平均乖離率が一定値を超えた実績
 - ・ 5年以内に市場撤退した品目数 等

医薬品製造業者は、**供給体制の強化**、同一成分の医薬品が**供給不足となった時の対応等**、**安定供給に対するより一層の対応**が求められる

IV-4. 市場規模：透析患者数推移と死亡者数推移（要因別）

医薬品セグメントの主力製品のターゲットである透析領域の市場推移

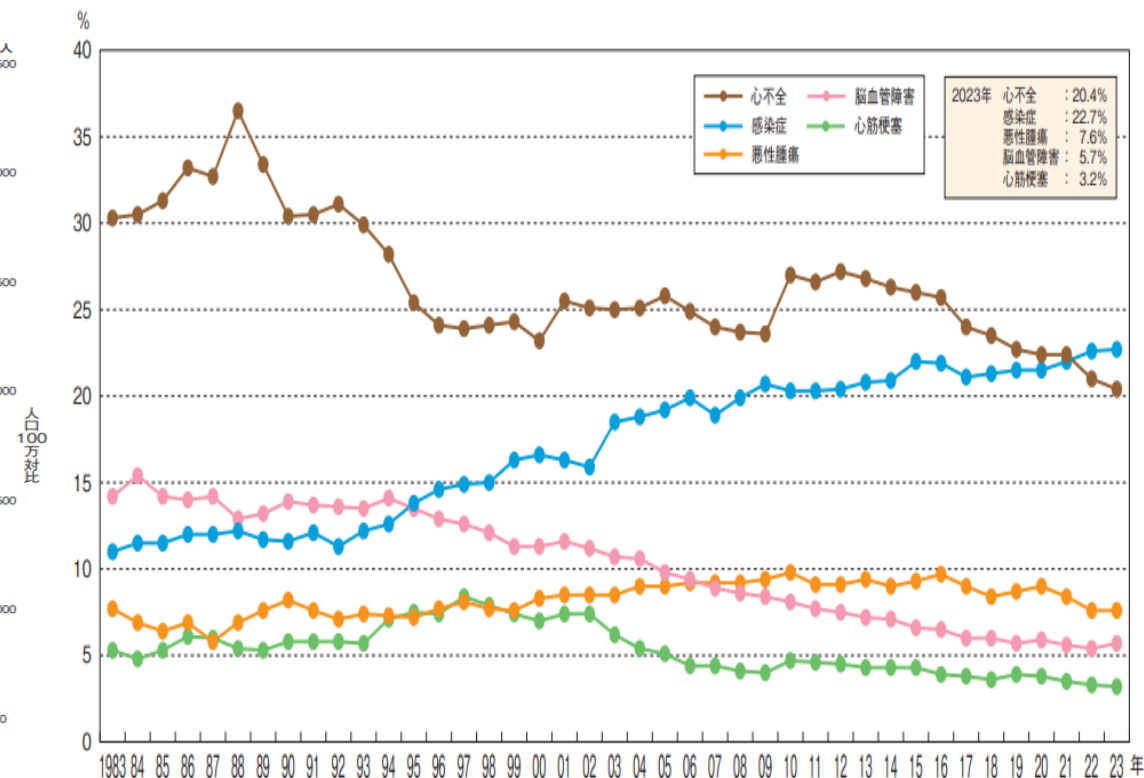
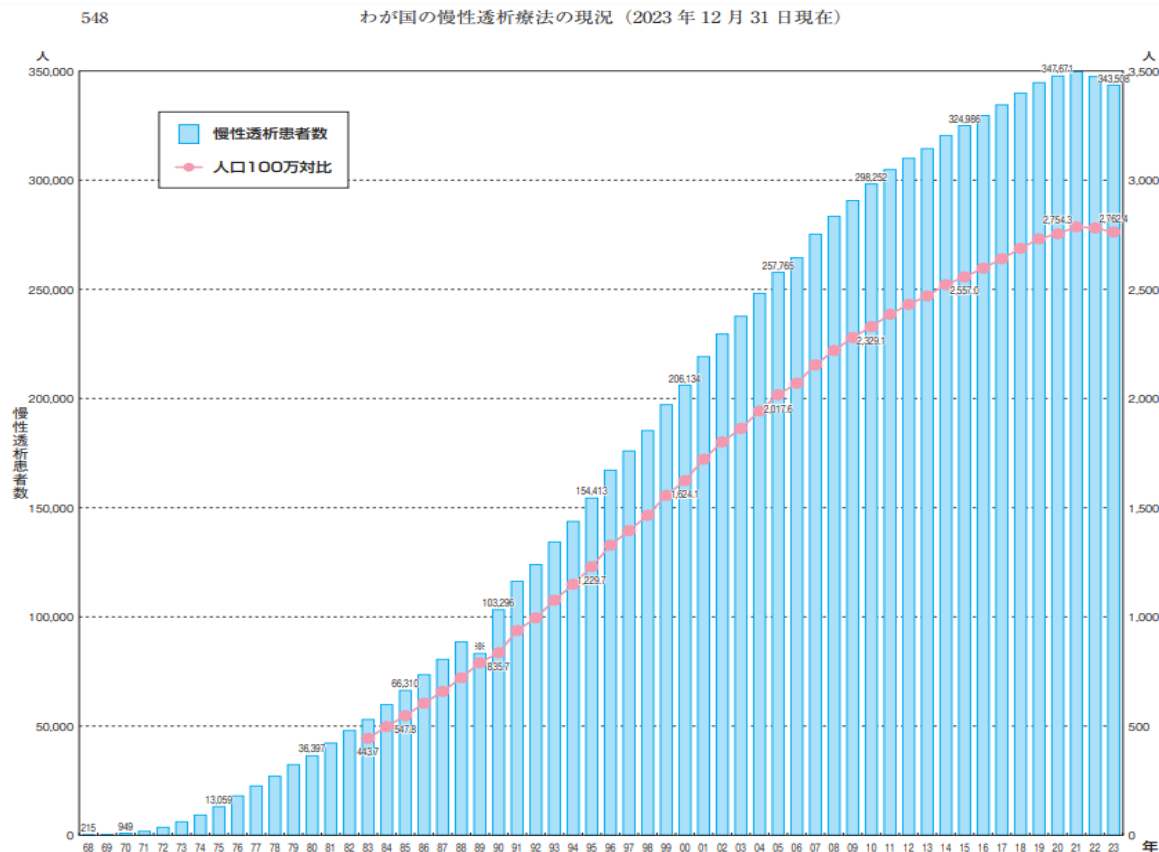


図 12 慢性透析患者 死亡原因割合の推移, 1983-2023

(患者調査による集計)

施設調査票に基づく 2023 年末慢性透析療法を受けている患者総数は 343,508 人。

透析患者の死亡原因は、**感染症**が心不全を抜いて最も多くなっており、**透析施設における感染症予防は重要なテーマ**となっている。

IV-5. 感染症予防とプレフィルドシリンジ

感染症の予防策として、プレフィルドシリンジ製剤の使用が推奨されている

透析施設における標準的な透析操作と感染予防に関するガイドライン
(六訂版)

Guidelines for Standard Hemodialysis Procedure and Prevention of
Infection in Maintenance Hemodialysis Facilities
(6th edition)

・プレフィルドシリンジ製剤が市販されている薬剤に関しては、極力これを選択することを推奨する。(Level 1 A)

〔推奨の強さ〕

Level 1 強い：強く推奨する

Level 2 弱い：弱く推奨する（提案する、条件付きで推奨する）

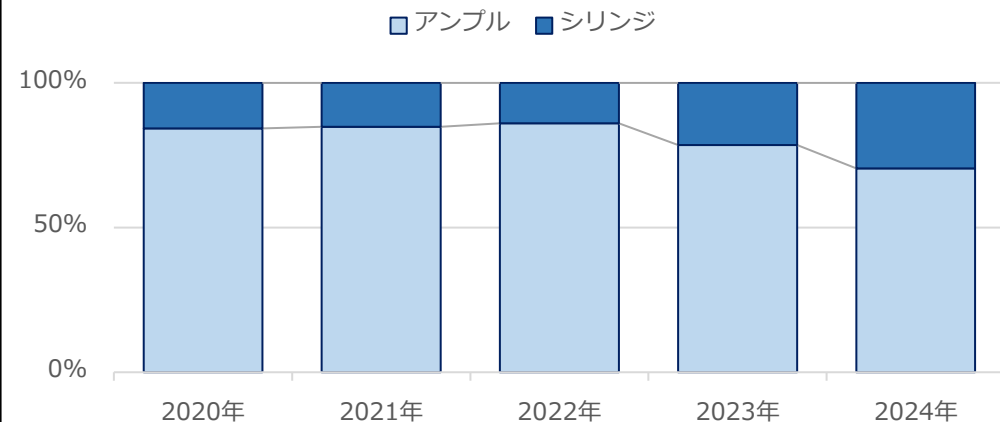
Level 3 根拠の強さ「なし」（明確な推奨ができない）

「透析施設における標準的な透析操作と感染予防に関するガイドライン（六訂版）」は、透析施設での院内感染防止のためのマニュアルとして日本透析医会より発行されているもの。その中で感染症対策として「プレフィルドシリンジ製剤が市販されている薬剤に関しては、極力これを選択することを推奨する。

（Level 1 A）」とされており、**感染症予防に有用なプレフィルドシリンジのニーズが高まっている。**

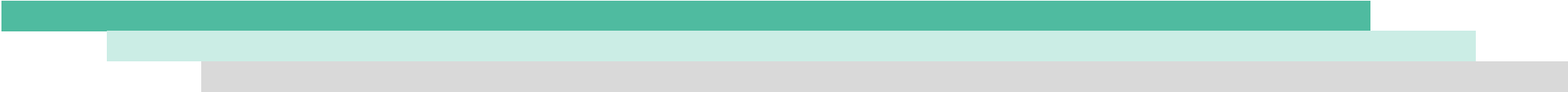
市場シェアは徐々に増加しているものの、更なる向上には**生産能力の強化が必要と判断し、蔵王第二工場の建設を決定した。**

マキシカルシトール数量シェア推移（2.5μ換算）（単位：％）



※ 公益社団法人 日本透析医会「透析施設における標準的な透析操作と感染予防に関するガイドライン（六訂版）」より引用

【Appendix】

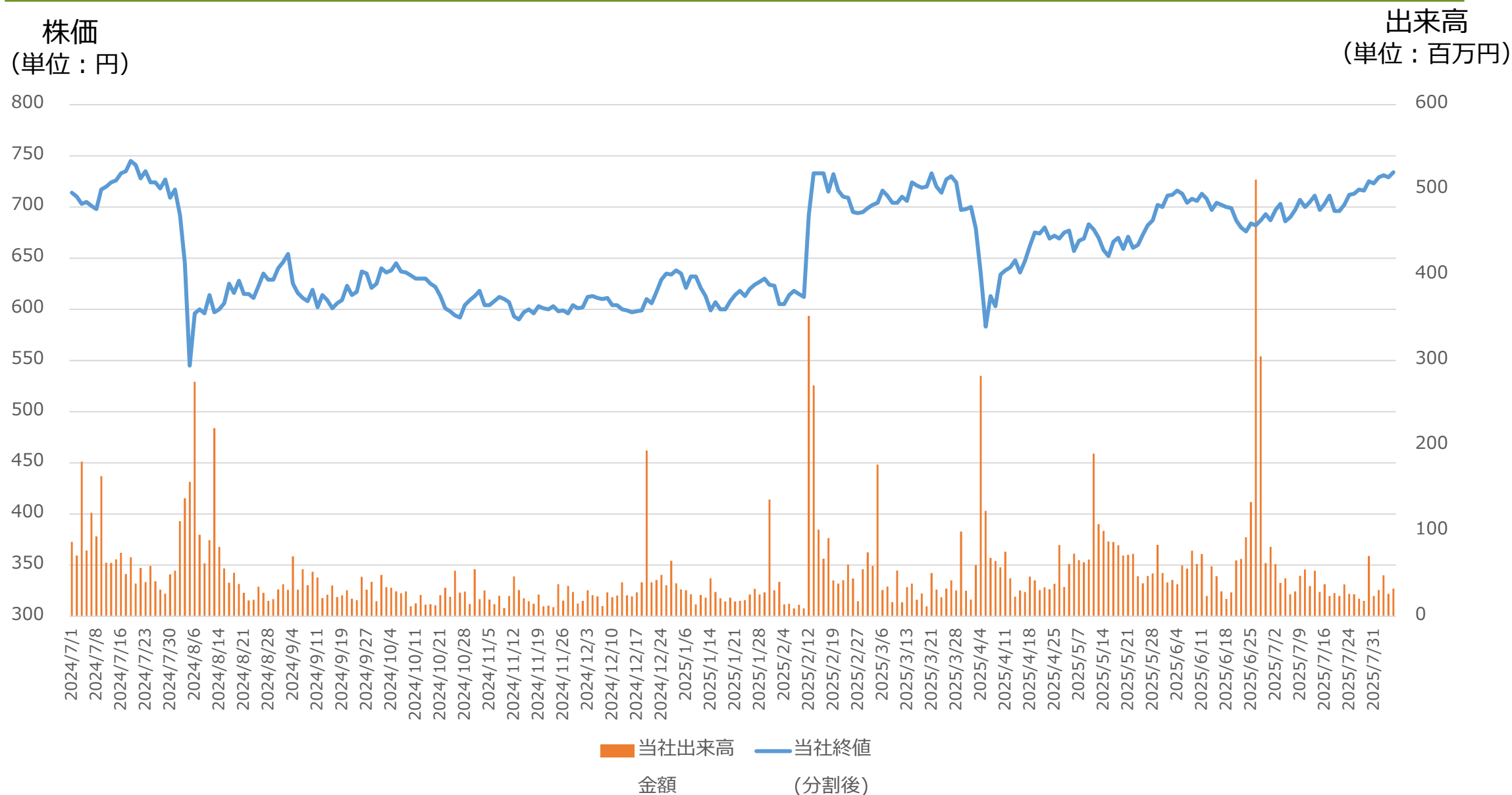


- ・株価推移
- ・諸指標
- ・医薬品について
- ・当社ポジションイメージ
- ・ジェネリック医薬品の価値、原薬について
- ・ビジネスモデル

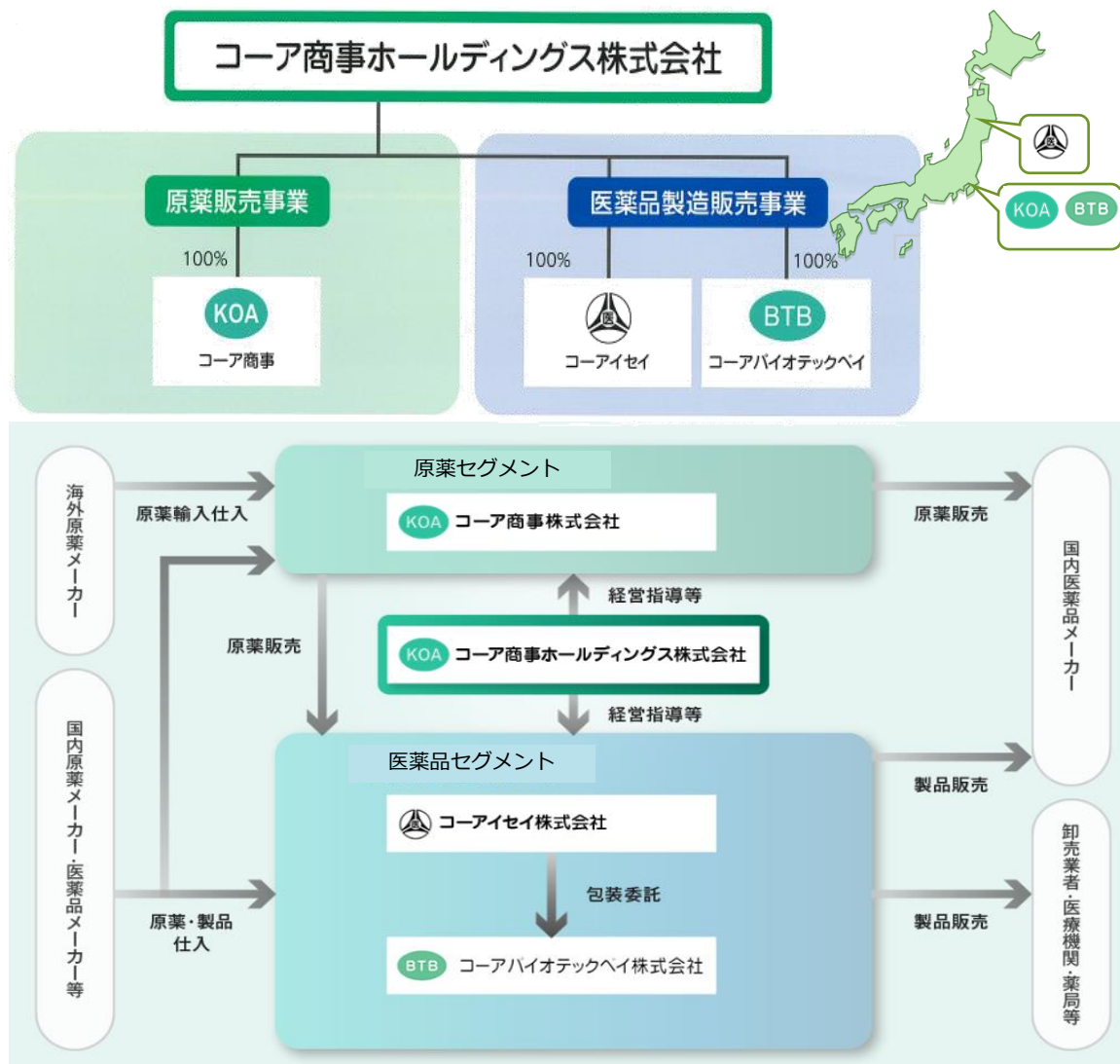


KOA SHOJI HOLDINGS

株価推移（当社株価・出来高推移）



会社概要



会社概要

会社名	コーア商事ホールディングス株式会社
設立年月	2015年1月
代表者	代表取締役社長 首藤 利幸
上場取引所	東京証券取引所 プライム市場
従業員数※	304名 【女性比率46.1%】
事業内容	持株会社 【グループ事業：原薬販売、医薬品製造販売】
本社所在地	横浜市港北区日吉7丁目13番15号
上位株主※	株式会社土師 42.33% 公益財団法人首藤奨学財団 10.92% 首藤利幸 5.03% 日本マスタートラスト信託銀行株式会社（信託口） 3.86%
ガバナンス※	取締役11名【社内7名、社外4名】 監査等委員5名【常勤1名、社外4名】

※ 2025年6月30日現在

2025年6月期売上構成比

62.7%



原薬セグメント

37.3%



医薬品セグメント

ビジョン・企業理念・経営方針 など



加速する「超高齢社会」で必要とされる 医薬品企業であり続けるために 革新を遂げてきた



1991年

創業者(現CEO)がイタリア系商社でジェネリック医薬品原薬ビジネスに従事していたことから、日本でのジェネリック医薬品市場拡大によるビジネスチャンスを見出し、それまでの人脈と経験を活かして**コア商事株式会社**を設立

2011年

高薬理活性領域のジェネリック注射剤の市場成長を見込み
注射剤に60年、凍結乾燥技術に40年の経験を有する
イセイ(現コアイセイ株式会社)と資本提携

2015年

コア商事ホールディングス株式会社を設立

2016年

コアイセイ 蔵王工場竣工

2018年

東証二部へ新規上場

2020年

東証一部指定

2022年

プライム市場へ



	2024年6月期	2025年6月期	2026年6月期 予想
総資産	320億円	361億円	—
純資産	250億円	281億円	—
自己資本比率	78.3%	77.9%	—
R O E	12.8%	13.7%	—
配当金	13.0円	16.0円	17.0円
配当性向	17.5%	18.5%	19.7%
純資産配当率（DOE）	2.3%	2.5%	—
P B R（期末時点）	1.18倍	1.04倍	—

株主還元：株主優待制度

期末配当（P6）の他に、株主優待制度を実施

割当基準日	保有株式数	優待の内容
<u>6月末日</u>	200 株以上保有	Q U Oカード 1,000 円分
	200 株以上かつ 1 年以上継続保有	Q U Oカード 2,000 円分

※ 1 年以上継続保有とは、6 月末日および 12 月末日の当社株主名簿に、同一株主番号で連続 3 回（6 月末日が 2 回および 12 月末日が 1 回）以上記載または記録された株主様といたします。



<医療用医薬品の種類>



医療用医薬品

医師の診断によって
処方される薬

医薬品

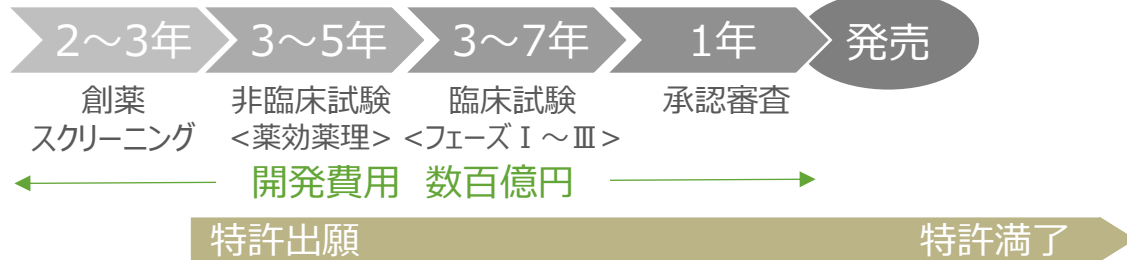


一般用医薬品 (OTC*)

ドラッグストアなどで処方せん
無しで購入できる薬

新薬（先発医薬品）

既にある医薬品と有効成分・効能・効果等が明らかに異なる
医薬品。20～25年の特許期間中、**独占的に製造・販売**できる。



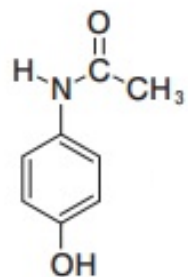
ジェネリック医薬品（後発医薬品）

先発品の特許が切れたあとに販売される、先発品と同じ有効成分
にて、**治療学的に同等**である医薬品。
先発品に比べ開発費が抑えられるために、より**低価格**である。

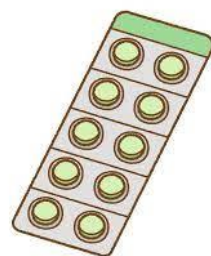


<医療用医薬品の流通>

原薬メーカー
添加剤メーカー



製薬会社



KOA

医薬品卸
／販社



医療機関
／調剤薬局



患者様



ジェネリック医薬品の価値、原薬について

ジェネリック医薬品の価値

新薬と効き目が同等であることを科学的に検証された医薬品。
新しい技術を用いて、患者さんの飲みやすさを考え、味、におい、使用感などの**改良**をおこなったものもある。

原薬とは = 医薬品有効成分

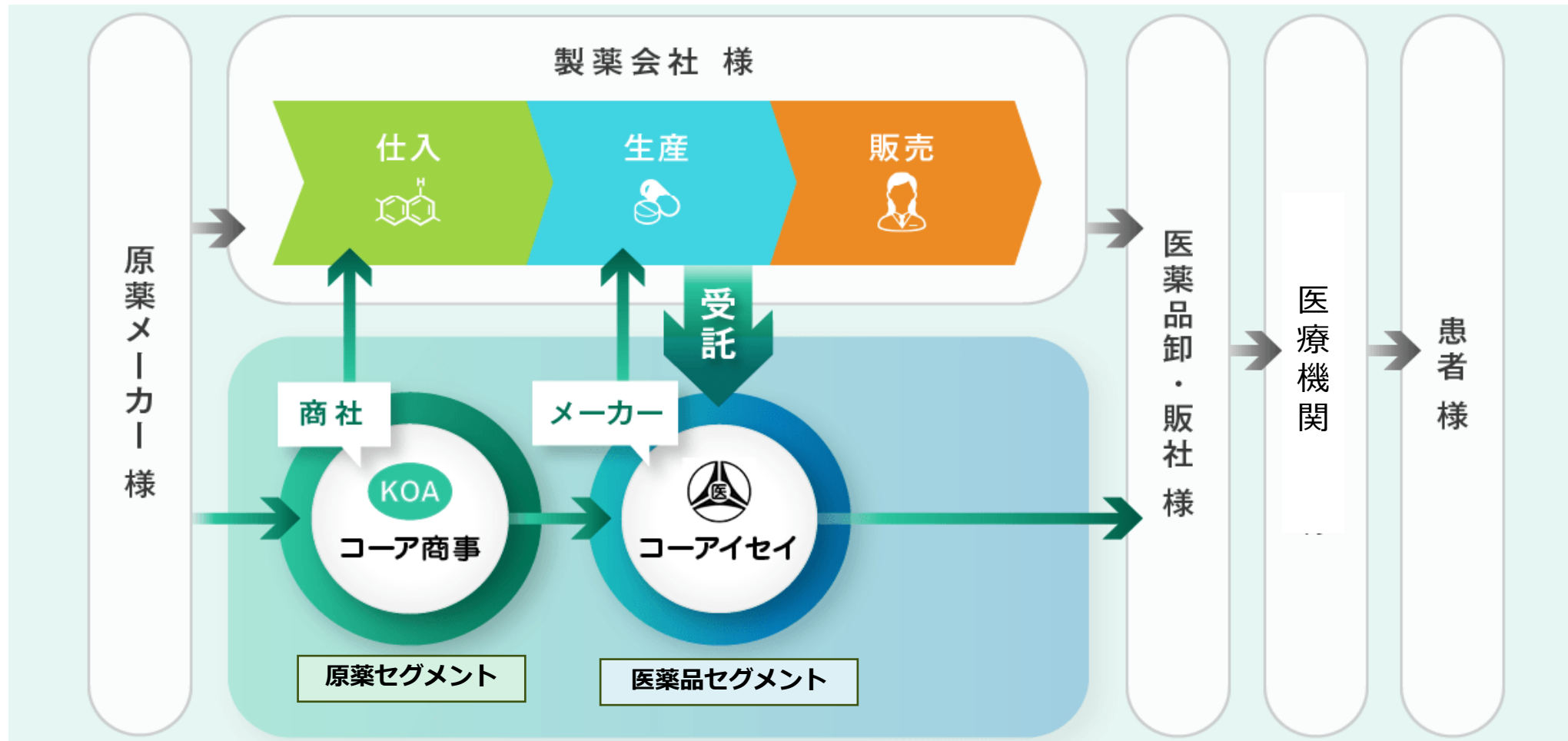
医薬品や医薬部外品に含まれる成分のうち目的である効果を表す成分のこと。

医薬品 →	カロナール	有効成分	アセトアミノフェン	← 原薬
		添加剤	乳糖水和物、結晶セルロース、部分アルファー化デンプン、ポリビニルアルコール、ステアリン酸マグネシウム、香料	

ビジネスモデル

- ・ 原薬セグメントにおける優位性（１）～（４）
- ・ 医薬品セグメントにおける優位性（１）～（３）

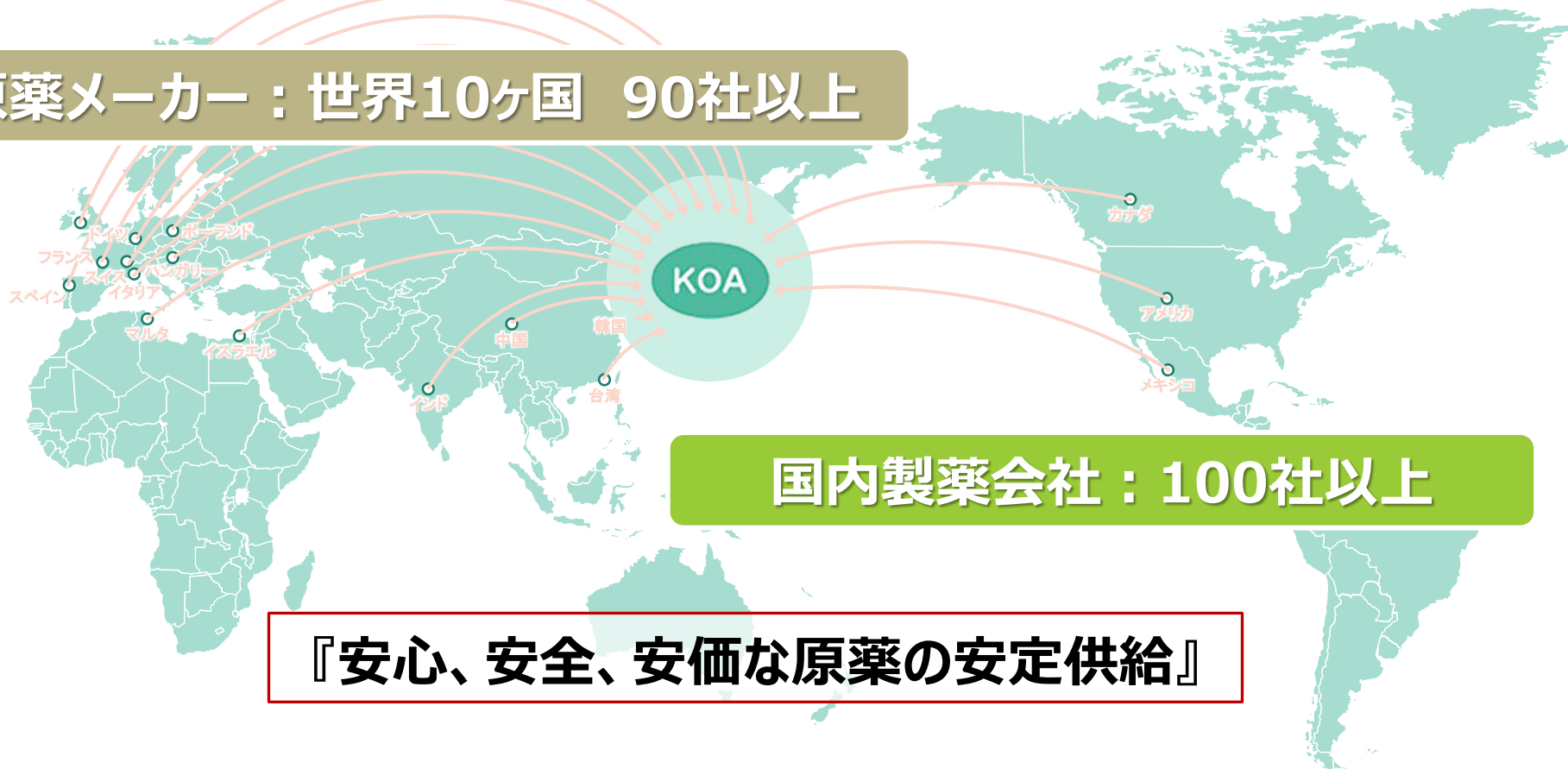
商社機能と製造機能を併せ持つビジネスモデルの独自性



原薬セグメントにおける優位性（１）

医薬品原薬の専門商社として
国内トップクラスの取引基盤・取扱商品数

海外原薬メーカー：世界10ヶ国 90社以上



国内製薬会社：100社以上

『安心、安全、安価な原薬の安定供給』

原薬セグメントにおける優位性（2）

少数精鋭の営業×スペシャリストによる充実したサポート体制



※2025年6月末時点

原薬セグメントにおける優位性（3）

開発初期段階から安心・安全な原薬の提案を可能とする専門部隊

KOA

開発部

日本市場の情報提供から
一緒に創るJapan Quality

数年先を見越した提案と
手厚い開発サポート

海外原薬メーカー

国内製薬会社

・ 特許を回避した製法の提案	特許調査	・ 特許見解書を提供
・ 日本の市場予測の提供	マーケティング	・ 市場性や既存のラインナップを意識した顧客ニーズに合った提案
・ 日本当局の査察基準に適合する管理体制の指導 ・ 日本の要求基準を満たす原薬の品質改良・新精製法の技術提案	開発監査	・ 信頼における原薬製造所の紹介 ・ 製剤に合わせた特性を有する原薬の提供
・ 低コストで合成できる製造法の技術提案	SIセンター	・ 製剤開発に役立つ技術情報提供

原薬セグメントにおける優位性（4）



医薬品セグメントにおける優位性（１）

長年にわたる**注射剤**の製造経験・凍結乾燥*技術
内服剤と注射剤3剤形(バイアル・アンプル・シリンジ)へ対応

原薬メーカー

コーアイセイ



本社工場

- 内服剤
- 注射剤アンプルライン
- 注射剤バイアルライン
(液剤・凍結乾燥ライン)

蔵王工場

- 注射剤シリンジライン
- 注射剤バイアルライン
(液剤・凍結乾燥ライン)



錠剤



バイアル



アンプル



シリンジ
(プレフィルドシリンジ)

患者様・国内製薬会社

* 凍結乾燥：必要な成分を凍結・乾燥させ、粉末状にしたもの。化学的に安定しており長期保存が可能だが使用のたびに溶解が必要。

医薬品セグメントにおける優位性（2）



錠剤

固型の製剤。

当社の主力製品のひとつ「炭酸ランタンOD錠」は錠剤の医薬品です。



バイアル

薬剤を入れた後ゴム栓をしたもの。注射器でゴム栓から薬液を取れる。



アンプル

薬液を充填した後に末端を溶かして閉じたもの。



シリンジ（プレフィルドシリンジ）

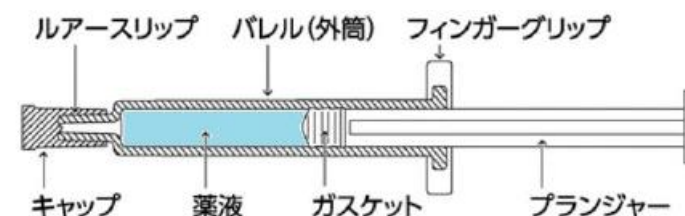
あらかじめ薬液が充填された状態の注射器。

当社製品の優位性

炭酸ランタンOD錠は、慢性腎臓病患者の高リン血症の改善用に使用される医薬品です。**ジェネリック医薬品では唯一水なしでも服用可能な口腔内崩壊錠**であり、水分摂取制限のある透析患者様に有用です。

マキシカルシトール注射剤は、副甲状腺ホルモンの合成・分泌を抑え、血中の副甲状腺ホルモン濃度を下げる薬で、通常、透析患者様の二次性副甲状腺機能亢進症の治療に用いられる医薬品です。

先発品の中外製薬株式会社をはじめ、数社が販売していますが、**他社の製剤はすべてアンプル**であるのに対し、**当社の製剤はシリンジ**であります。プレフィルドシリンジの製剤は感染予防と医療従事者の安全性と作業効率向上の観点から有用であります。



医薬品セグメントにおける優位性（3）

蔵王第一工場 少量多品種 × 高薬理活性 × 高品質・安全性



投資総額	約50億円
面積	建築： 1,917.04m ² 敷地： 21,028.90m ²
製造能力 (1ml換算)	シリンジ製剤：約480万本/年※3 バイアル製剤(液)：約90万本/年 凍結乾燥製剤：約60万本/年

- シングルユース対応の
フレキシブルな生産体制
- ケミカルハザード
カテゴリー5を実現※1
- アイソレーター対応
無菌充填システム採用
・・・など

治験薬※2から最終製品まで製造可能

※1 ケミカルハザード カテゴリー：高薬理活性化合物の曝露管理レベル

※2 人への効果や安全性、治療法などを確認する目的で
行われる臨床試験(治験)に用いる為、小規模生産となる。

※3 3直体制での生産能力

この資料は投資家の皆様の参考に資するため、コア商事ホールディングス株式会社（以下、当社）の現状をご理解いただくことを目的として当社が作成したものです。

当資料に記載された内容は、説明会開催日現在において一般的に認識されている経済・社会等の情勢および当社が合理的と判断した一定の前提に基づいて作成されておりますが、経営環境の変化等の事由により、予告なしに変更される可能性があります。投資を行う際は、ご自身の判断でなさるようお願いいたします。



医薬品を
上流から
支える。

コア商事ホールディングス株式会社 (証券コード: 9273)